

資料

[分冊版]

令和8年3月
岩手県野田村

第1編

野田村人口ビジョン

まち・ひと・しごと創生



野田村 人口ビジョン

平成 28（2016）年 3 月 策定

令和 8（2026）年 2 月 一部改定



岩手県 野田村

目 次

1	はじめに.....	1
2	野田村の人口の現状.....	2
	（1）総人口の推移.....	2
	（2）年齢3区分別人口の推移.....	3
	（3）人口ピラミッドの推移.....	4
3	野田村の人口動向の分析.....	5
3-1	人口の動向.....	5
	（1）出生・死亡数、転入・転出数の推移.....	5
	（2）合計特殊出生率の推移.....	6
	（3）性別・年齢別未婚率の推移.....	6
	（4）自然増減と社会増減の推移.....	7
	（5）近年の年齢階級別の人口移動の状況.....	8
3-2	年齢階級別の人口動向分析.....	9
	（1）年齢階級別の人口移動の状況.....	9
	（2）転入転出の状況及び純移動数.....	10
	（3）5歳階級別・性別転入転出数、純移動数の状況.....	13
3-3	産業別就業・雇用に関する人口分析.....	17
4	人口の将来展望.....	19
4-1	目指すべき将来の方向.....	19
	（1）現状と課題の整理.....	19
	（2）目指すべき将来の方向.....	19
4-2	将来人口の推計.....	20
4-3	人口の将来展望.....	21
4-4	人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察.....	23
	（1）産業経済の状況.....	23
	（2）地域の産業における人材（人手）の過不足状況.....	23
	（3）都市構造に関する状況.....	23
	（4）公共サービスに関する状況.....	23
	（5）地域の産業経済に与える影響.....	23
	（6）住民生活に与える影響.....	24
	（7）財政に与える影響.....	24
5	おわりに.....	25

1 はじめに

野田村では、人口の減少や少子高齢化、産業の活性化、雇用の創出等の課題に対し、これまでも対策を進めてきたところ。

そのような中、国においては、平成 26 年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、同年 12 月には、人口の現状や将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後 5 か年の目標や施策の基本的方向等を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

野田村においては、上記の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、平成 28 年 3 月に「野田村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）」を策定した。また、その後、令和 5 年には第 2 期総合戦略を策定するなど、人口減少克服と地方創生に向けた取組を合わせて進めてきた。

今般、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）による将来推計人口が公表されたことや、令和 8 年から令和 12 年度を計画期間とする第 3 期総合戦略策定の参考とするため、各種調査結果など最新のデータを基に改めて分析を行い、人口ビジョンを見直すこととしたものである。

本ビジョンは、現時点での人口減少がもたらす影響に関する認識をあらゆる主体の皆様と共有するとともに、今後目指すべき将来の方向を提示し、共に取り組んでいけるよう、人口の現状と将来展望を示したものである。

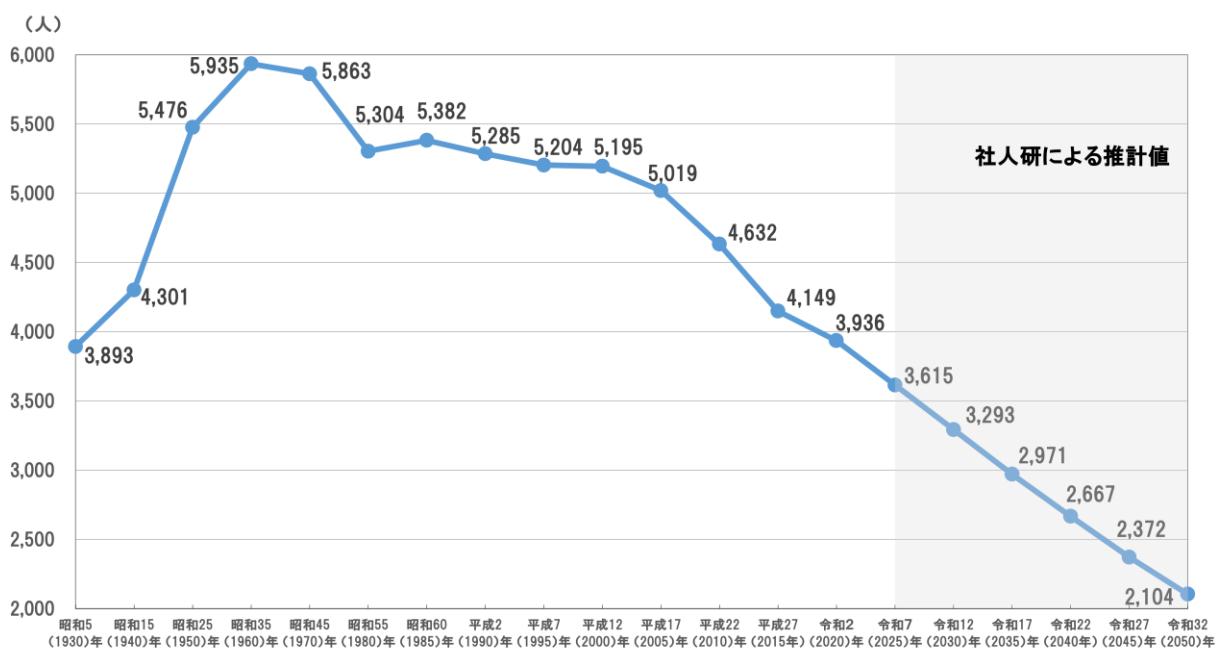
2 野田村の人口の現状

(1) 総人口の推移

本村の人口は、昭和5（1930）年から昭和35（1960）年にかけて大幅に増加し、昭和35（1960）年の5,935人をピークに、その後は減少傾向が続いている。令和2（2020）年には、3,936人まで減少している。

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和7（2025）年以降も減少傾向が続き、令和32（2050）年には、2,104人まで減少することが予測されている。

図表 総人口の推移



資料：国勢調査（1930～2020年）、国立社会保障・人口問題研究所令和5年12月推計

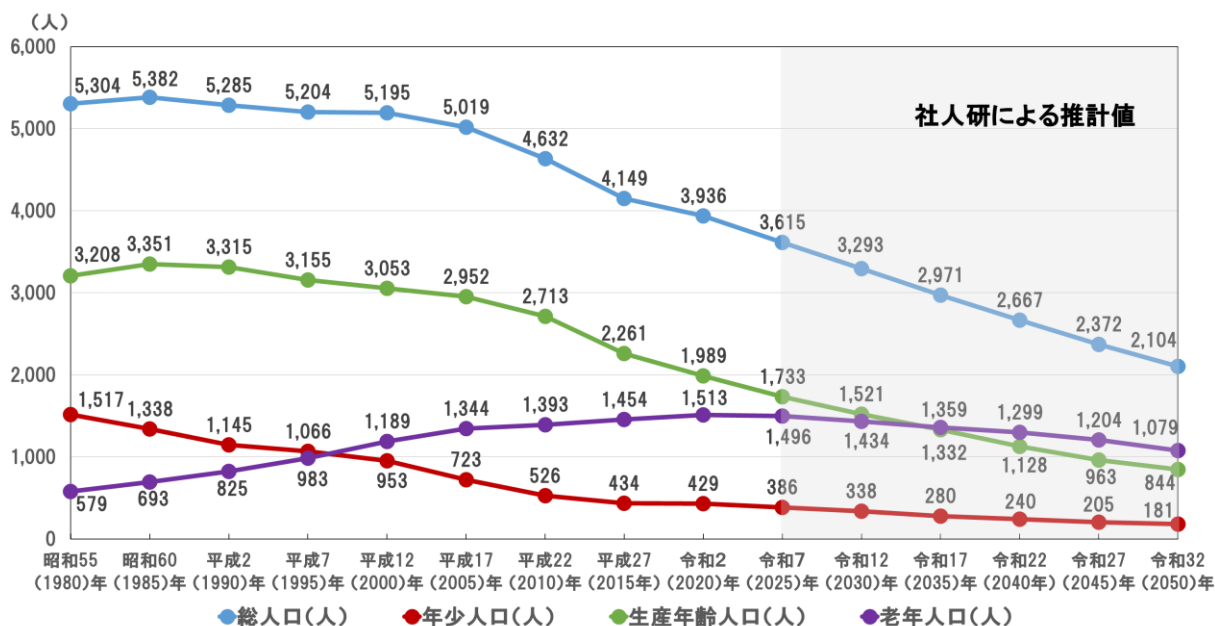
(2) 年齢3区分別人口の推移

生産年齢人口（15～64歳）は、昭和60（1985）年の3,351人をピークに減少に転じ、令和2（2020）年には1,993人まで減少した。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、減少傾向がさらに続き令和32（2050）年には844人に減少すると予測されている。

年少人口（14歳以下）は、昭和55（1980）年以降減少傾向が続いており、令和2（2020）年に429人と約3分の1以下となっている。推計では、令和7（2025）年以降も減少傾向が継続し、令和32（2050）年には181人まで減少するとされている。

老年人口（65歳以上）は、昭和55（1980）年以降増加傾向にあり、令和2（2020）年には1,514人まで増加しました。推計では、令和2（2020）年をピークに減少傾向に転じ、令和32（2050）年には1,079人になるとされているが、老年人口が生産年齢人口を上回る状況になると予測されている。

図表 年齢3区分別の人口の推移



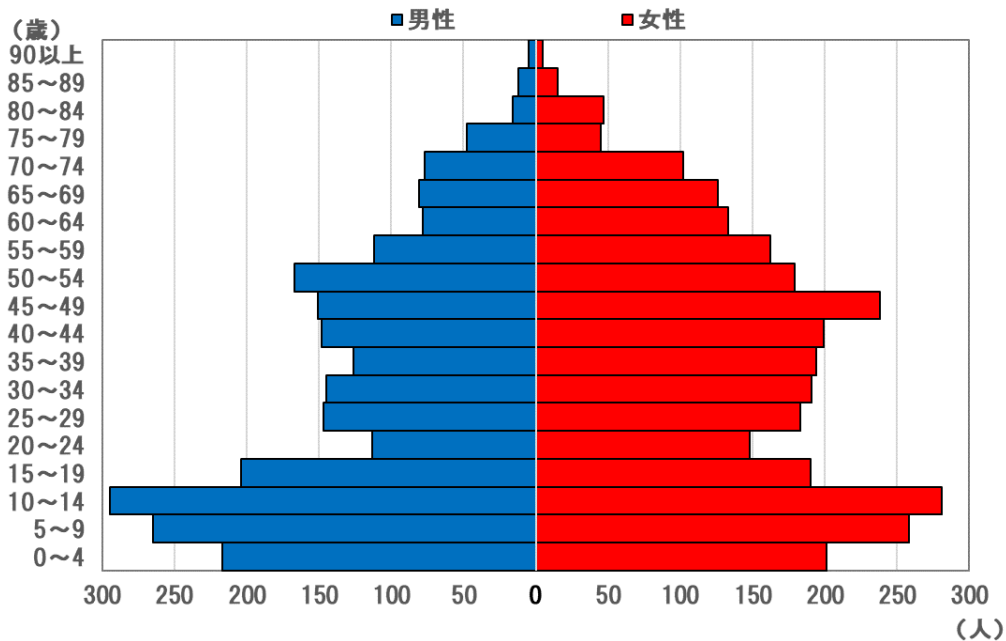
資料：国勢調査（1930～2020年）、国立社会保障・人口問題研究所令和5年12月推計

※令和2年の国勢調査結果においては、年齢不詳（5人）がいるため、「総人口」と「年少人口・生産年齢人口・老年人口の合算値」の値が異なるもの。

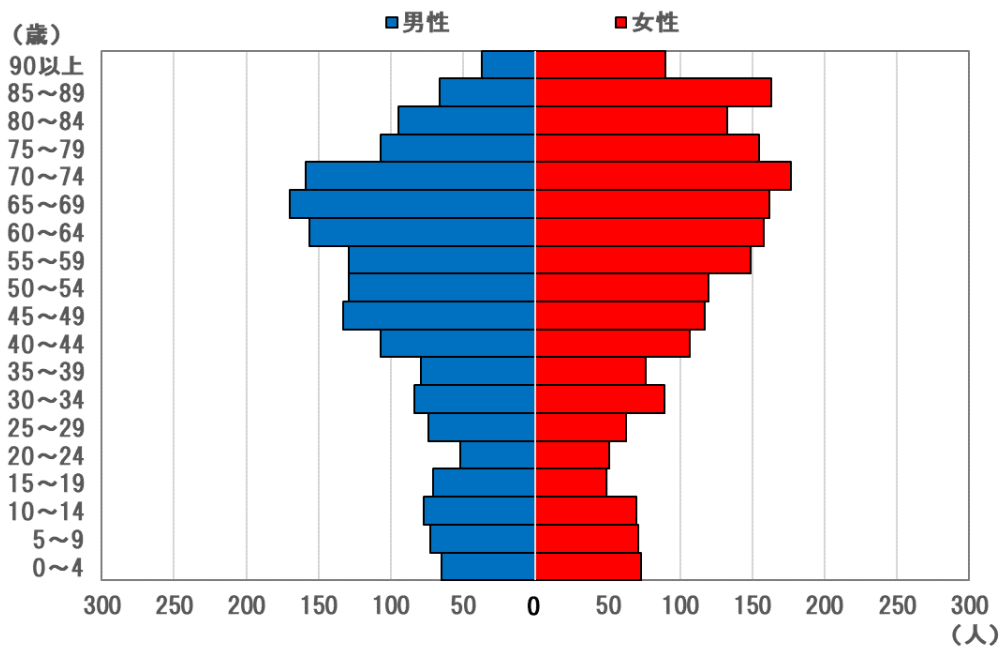
(3) 人口ピラミッドの推移

人口ピラミッドの推移をみると、昭和 55（1980）年は男女ともに 10～14 歳の人口が最も多く、年少人口が多く老年人口が少ない「ピラミッド型」であった。一方、令和 2（2020）年になると、老年人口が増加し、年少人口が減少している。

図表 人口ピラミッド（昭和 55（1980）年）



図表 人口ピラミッド（令和 2（2020）年）



3 野田村の人口動向の分析

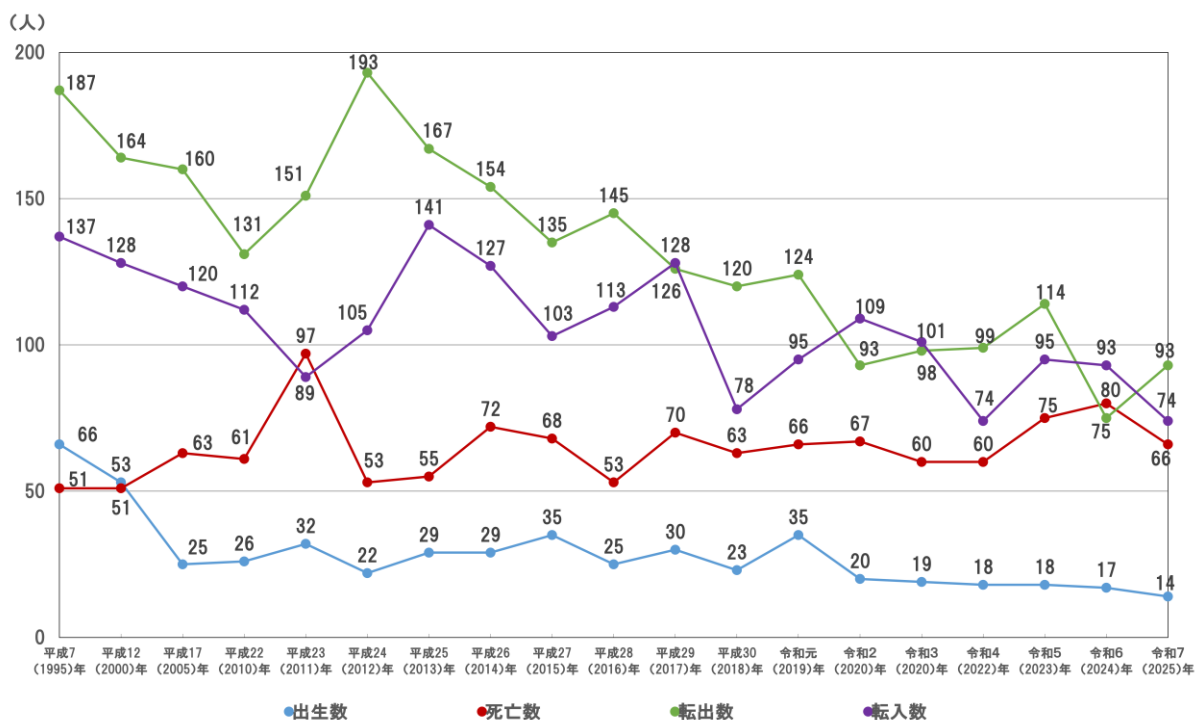
3-1 人口の動向

(1) 出生・死亡数、転入・転出数の推移

出生数は、30人前後の水準で推移していたが、近年緩やかな減少傾向にある。死亡数は、平成23(2011)年を除いて、概ね60~70人程度で推移している。年により増減はあるものの、近年は死亡数が出生数を上回っている。

転入数は、長年減少傾向が続き、平成23(2011)年に初めて100人を下回った。その後は一時的に増加傾向に転じていたが、近年は年によって増減はあるものの緩やかな減少傾向にある。転出数は、年によって増減はあるものの減少傾向が続いていたが、100人程度の水準で推移しており、年によって転入数が転出数を上回って推移している。

図表 出生・死亡数、転入・転出数の推移

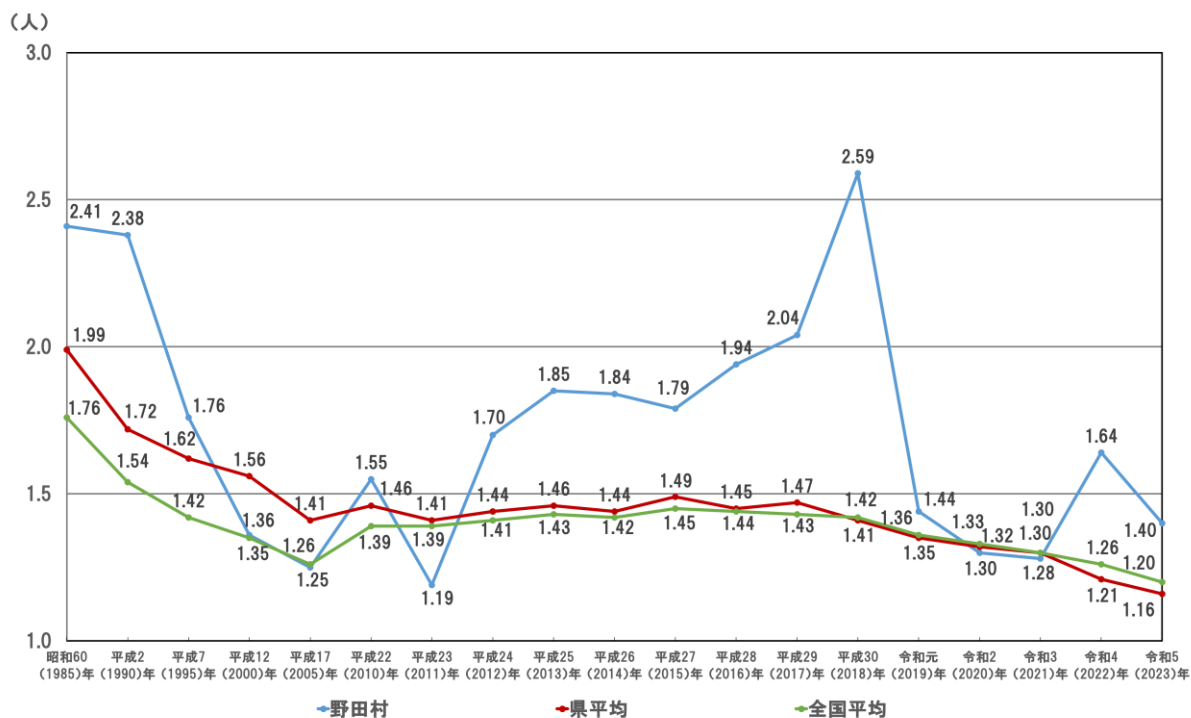


資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

(2) 合計特殊出生率の推移

本村の合計特殊出生率は、過去約40年間においては昭和60（1985）年の2.41をピークに減少傾向が続いていたが、平成24（2012）年から徐々に上昇し平成30（2018）年に2.59となった。令和元（2019）年以降は減少傾向が続いているが、全国平均及び県平均と比べ高い水準となっている。

図表 合計特殊出生率（昭和60（1985）年～令和5（2023）年）

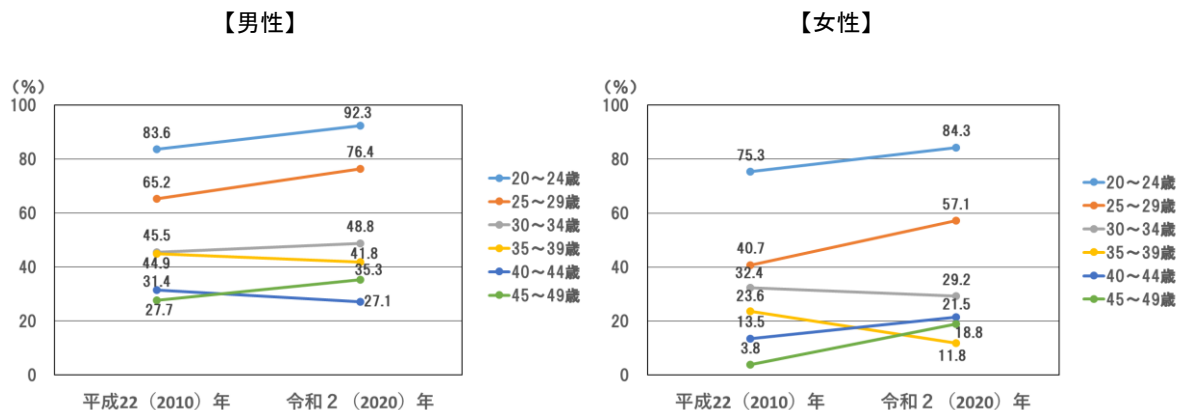


資料：岩手県人口動態統計

(3) 性別・年齢別未婚率の推移

本村の性別・年齢別未婚率の推移をみると、男性は25～34歳及び45～49歳以上、女性は20～29歳及び40歳以上で未婚率が上昇しており、晩婚化の進行や生涯未婚者が増加しているものと推測できる。

図表 性別・年齢別未婚率の推移

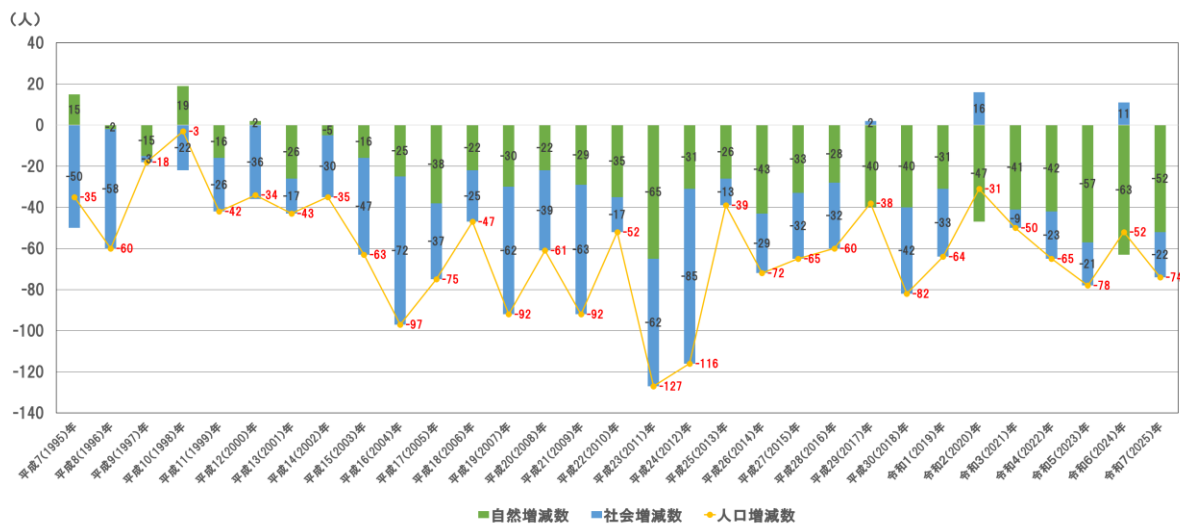


資料：国勢調査

(4) 自然増減と社会増減の推移

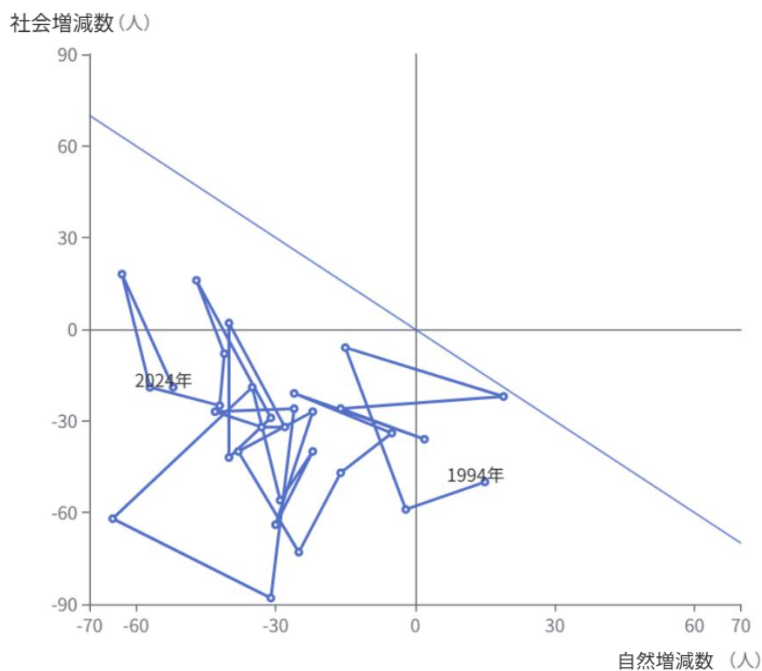
平成 17 (2005) 年以降の自然増減と社会増減の推移をみると、平成 29 (2017) 年、令和 2 (2020) 年及び令和 6 (2024) 年においては、社会増となっているが、その他の期間においては自然減、社会減となっており、人口減少が続いている。

図表 自然増減と社会増減の推移



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

図表 自然増減と社会増減の推移 (散布図)



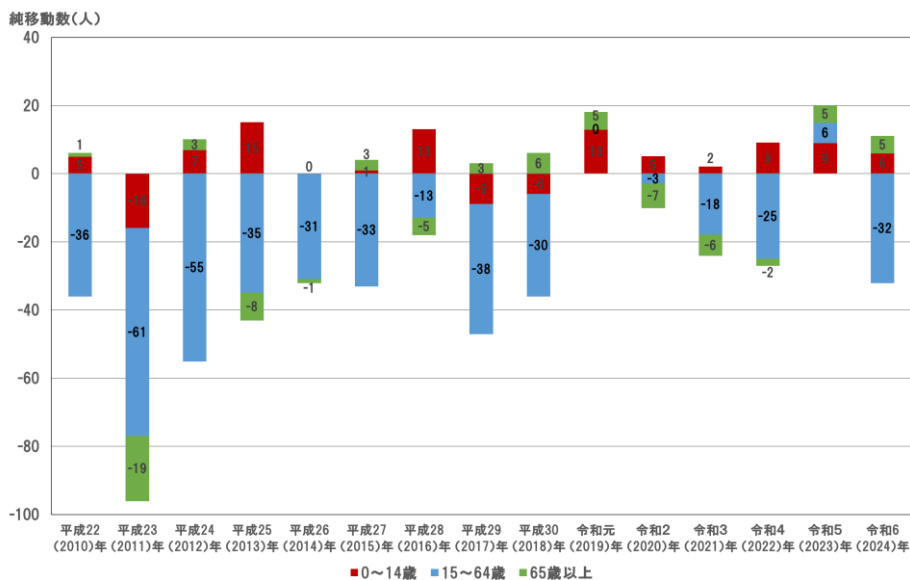
資料：「地域経済分析システム RESAS—人口増減分析」 (<https://resas.go.jp/population-sum/>)

「自然増減・社会増減の推移(散布図)」(出典元：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工)を加工して作成

(5) 近年の年齢階級別の人口移動の状況

近年の人口移動の状況をみると、平成22(2010)年以降、令和元(2019)年及び令和5(2023)年を除いた年において、転出者が転入数を上回る転出超過が続いている。特に、「15～64歳」において大幅な転出超過となっている。

図表 近年の年齢階級別の人口移動の状況



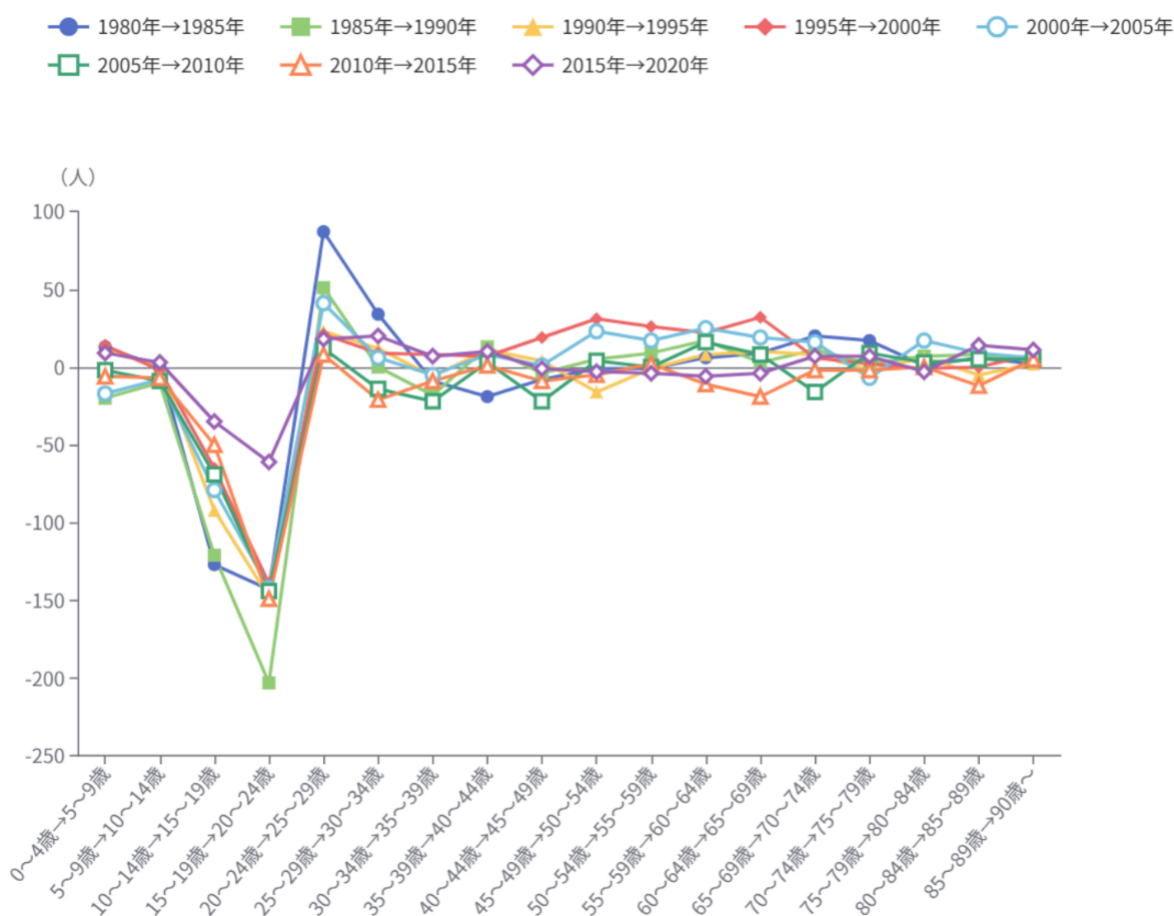
資料：住民基本台帳人口移動報告

3-2 年齢階級別の人口動向分析

(1) 年齢階級別の人口移動の状況

長期的な年齢階級別の人口移動の状況を比較すると、「15～19歳から20～24歳」までの年代で大幅な転出超過となっており、高校や大学への進学、就職に伴う転出の影響が大きいと考えられます。「20～24歳→25～29歳」にかけては転入超過となっており、大学卒業後等の段階で本村へ戻ってくる傾向が見られます。

図表 年齢階級別純移動数の推移（時系列分析）



資料：「地域経済分析システム RESAS—人口増減分析」 (<https://resas.go.jp/population-sum/>)

「年齢階級別純移動数の時系列分析」(出典元：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成)を加工して作成

(2) 転入転出の状況及び純移動数

① 転入・転出と純移動数

令和6（2024）年における転入・転出と移動数をみると、転入数は71人、転出数は92人で、21人の転出超過となっている。

転入元・転出先はともに県内（通勤通学率10%圏外）が最も多く、転入数26人、転出数27人となっている。

通勤通学率10%圏とは、常住地における通勤・通学者数に占める、野田村で従業・通学する数の割合が10%以上の地域をいい、本村においては、久慈市が該当する。

図表 野田村の転入・転出と純移動数（令和6（2024）年）

	転入数	転出数	純移動数
県内（通勤通学率10%圏内）	14	16	-2
県内（通勤通学率10%圏外）	26	27	-1
県外（東北）	9	25	-16
県外（東北以外）	22	24	-2
合計	71	92	21

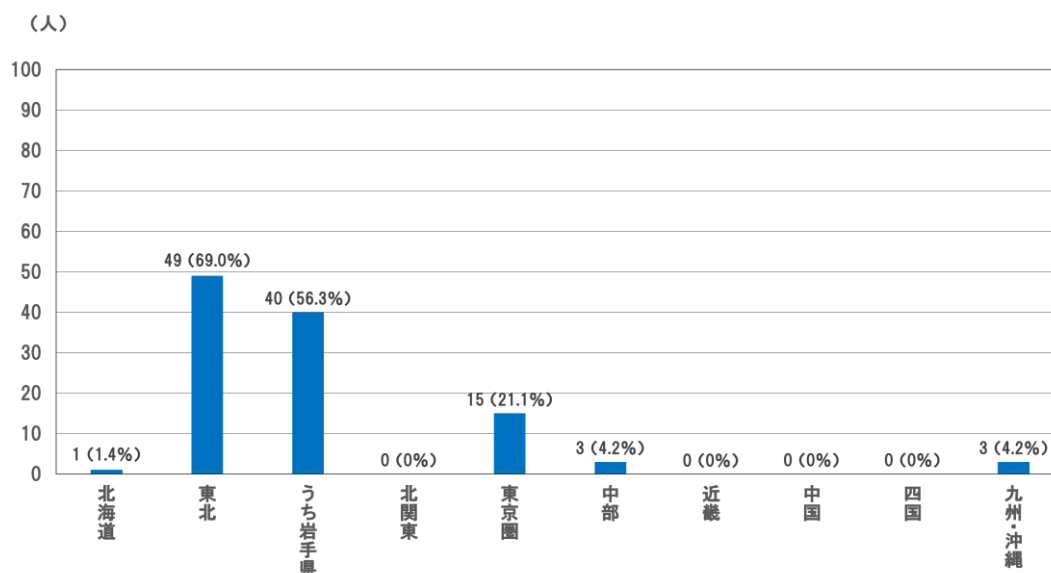
資料：住民基本台帳移動報告

②転入者の状況

本村への転入は、東北圏からの転入が最も多くなっており、そのうち6割近くが岩手県内からの転入となっている。続いて、東京圏からの転入が約2割となっている。

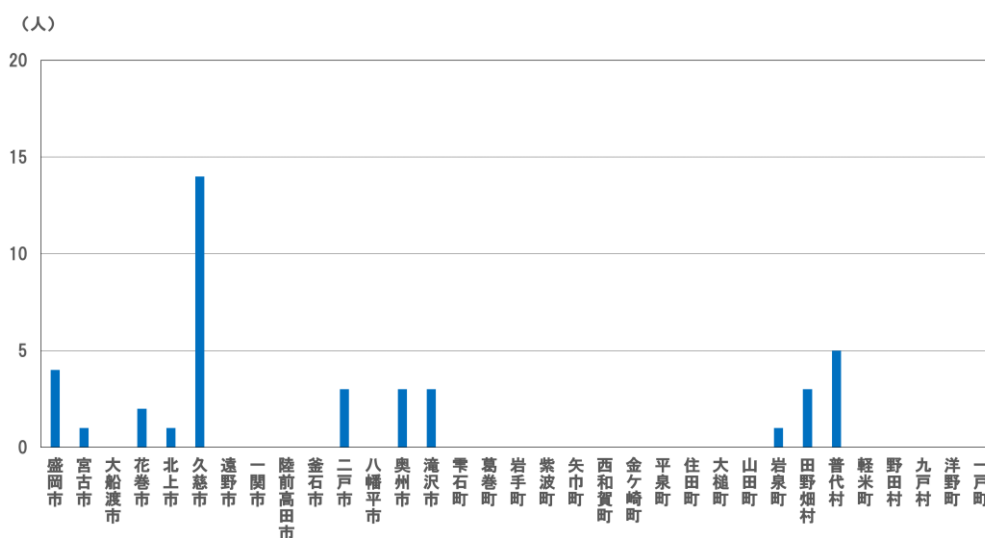
県内の市町村からの転入は、隣接する久慈市が最も多く、次に普代村、盛岡市と続いている。

図表 移動前の住所地別転入者数（地域ブロック別・令和6（2024）年）



資料：住民基本台帳移動報告

図表 移動前の住所地別転入者数（岩手県内市町村別・令和6（2024）年）



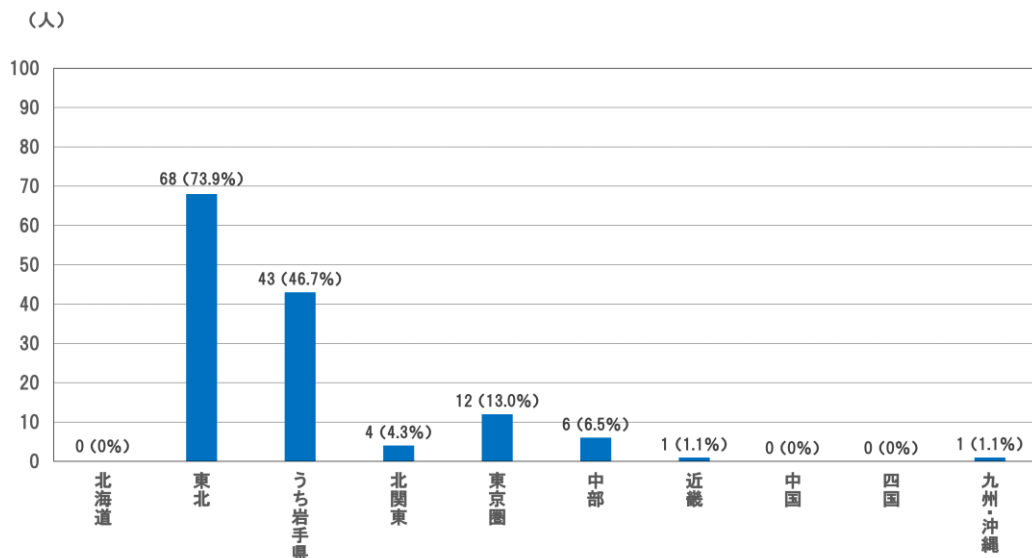
資料：住民基本台帳移動報告

③転出者の状況

本村の転出者数は、7割以上が東北圏への転出となっており、うち約6割が岩手県内への転出となっている。次に、東京圏への転出が3割弱となっている。

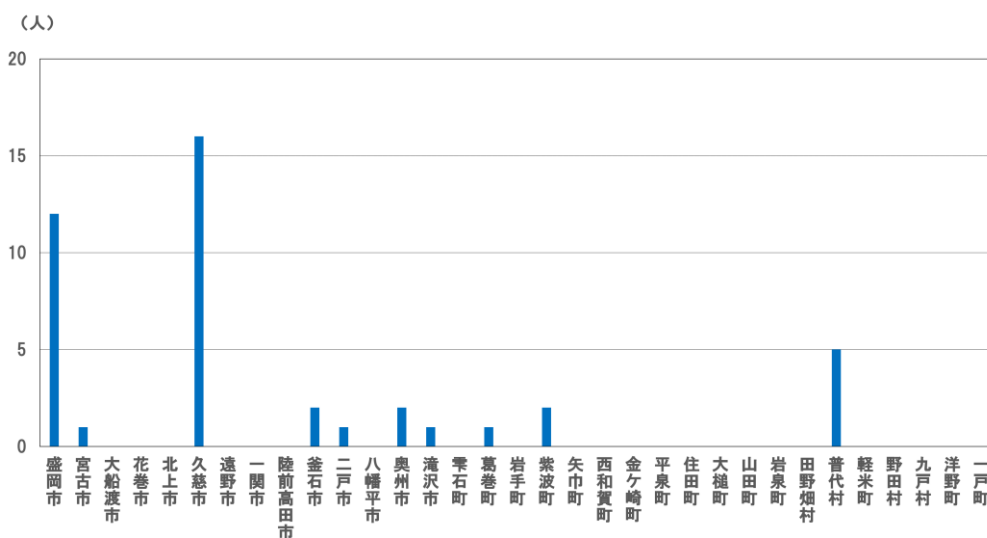
県内への転出者については、久慈市が突出して多く、次に盛岡市、普代村と続いている。

図表 移動後の住所地別転出者数（地域ブロック別・令和6（2024）年）



資料：住民基本台帳移動報告

図表 移動後の住所地別転出者数（岩手県内市町村別・令和6（2024）年）



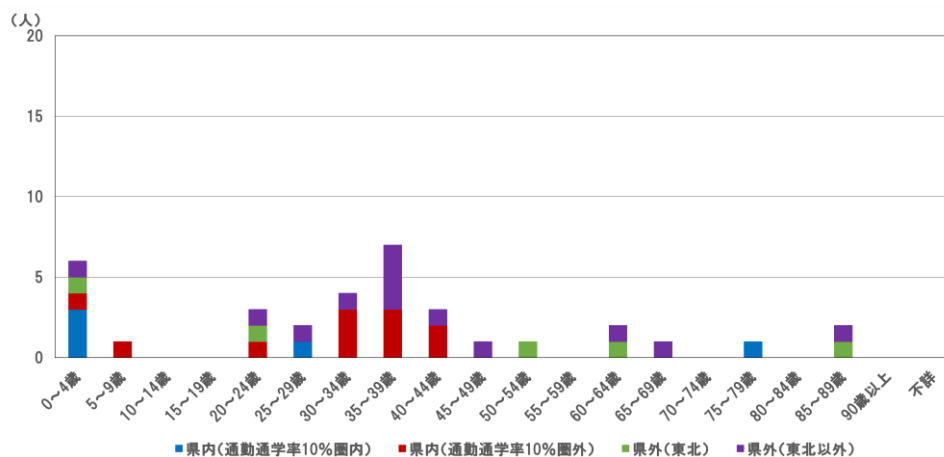
資料：住民基本台帳移動報告

(3) 5歳階級別・性別転入転出数、純移動数の状況

5歳階級別・性別をみると、転入については、男性においては35～39歳、女性においては30～34歳が多くなっている。その内訳をみると、男性の35～39歳においては県外（東北以外）が半数を超えているが、女性の30～34歳においては、県内（通勤通学率10%圏外）からの転入が多くなっている。

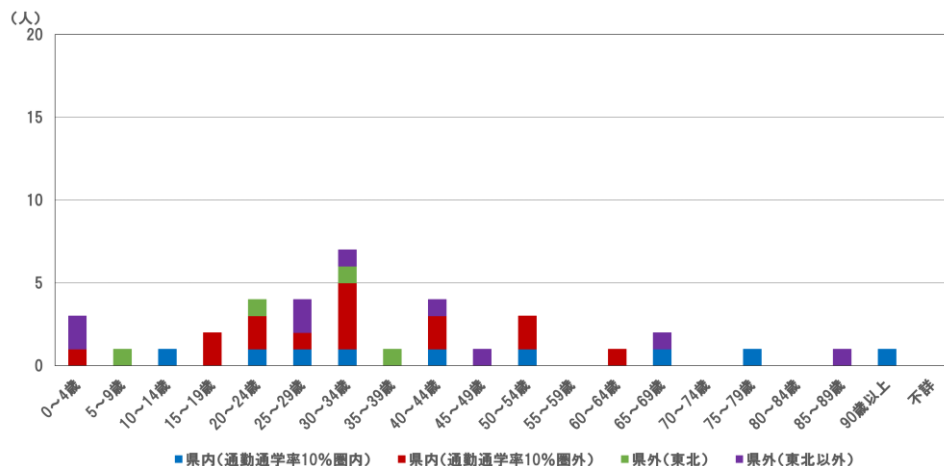
転出については、男性においては20～24歳、25～29歳が多くなっており、女性においては、15～19歳、20～24歳が多くなっている。その内訳をみると、男性においては、20～24歳では県内（通勤通学率10%圏外）と県外（東北以外）への転出が多く、25～29歳ではやや県外（東北以外）が多いものの、概ねどの区分も同程度となっている。女性においては、15～19歳では県内と県外（東北以外）への転出が多い一方、20～24歳では県外（東北）への転出が多くなっている。男性は、就職や転職に伴う県内外への転出が多いのに対し、女性は進学や就職、結婚に伴い県外へ転出する傾向が高いと推測される。

図表 5歳階級別転入数の状況（男性・令和6（2024）年）



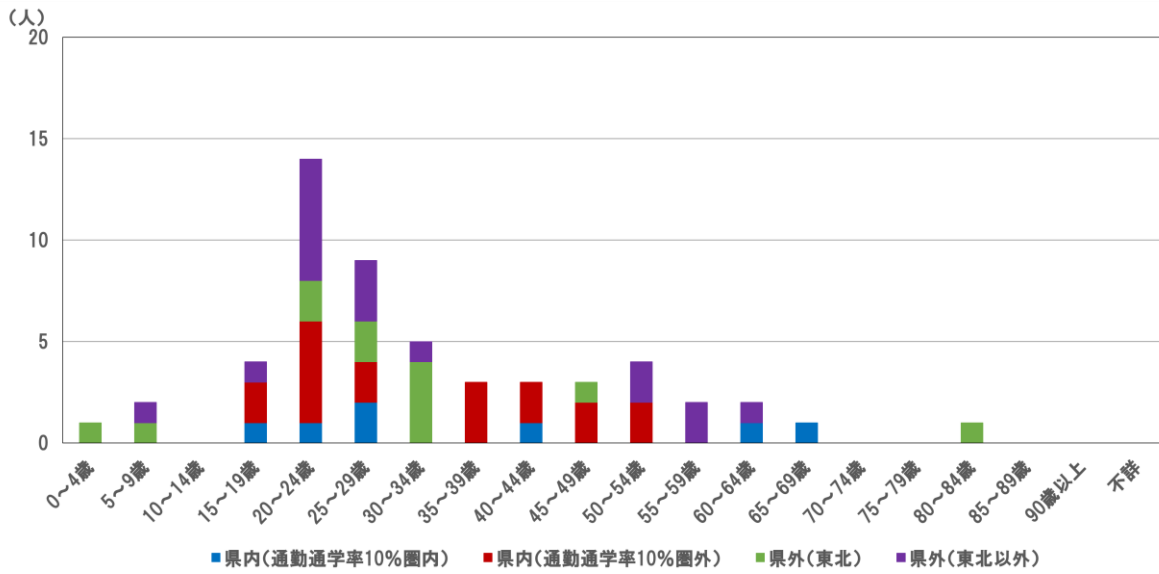
資料：住民基本台帳移動報告、住民基本台帳に基づく都道府県及び市区町村別詳細分析表（2024年）

図表 5歳階級別転入数の状況（女性・令和6（2024）年）



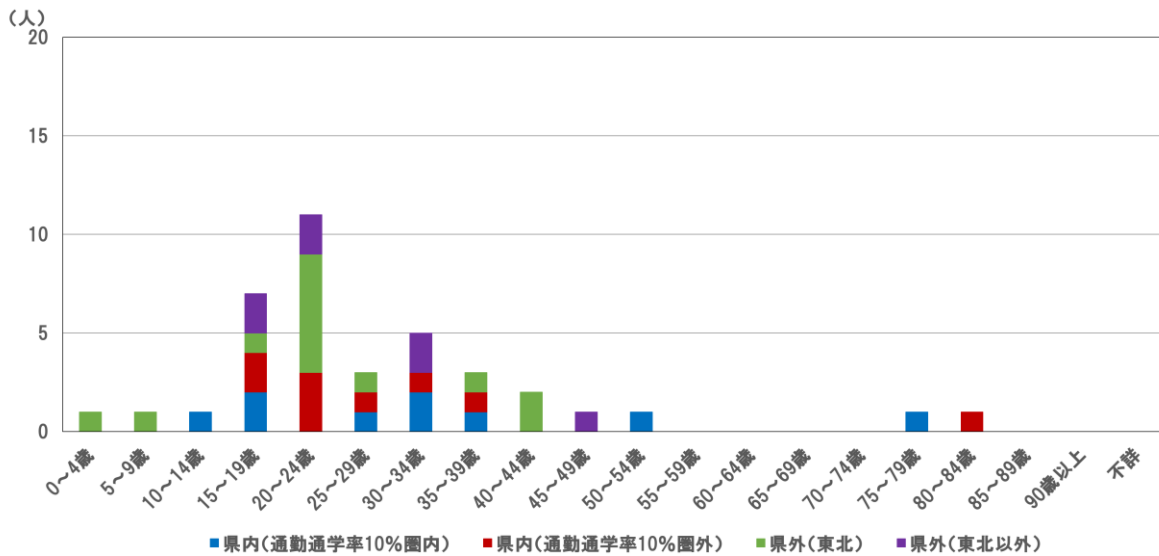
資料：住民基本台帳移動報告

図表 5歳階級別転出数の状況（男性・令和6（2024）年）



資料：住民基本台帳移動報告

図表 5歳階級別転出数の状況（女性・令和6（2024）年）



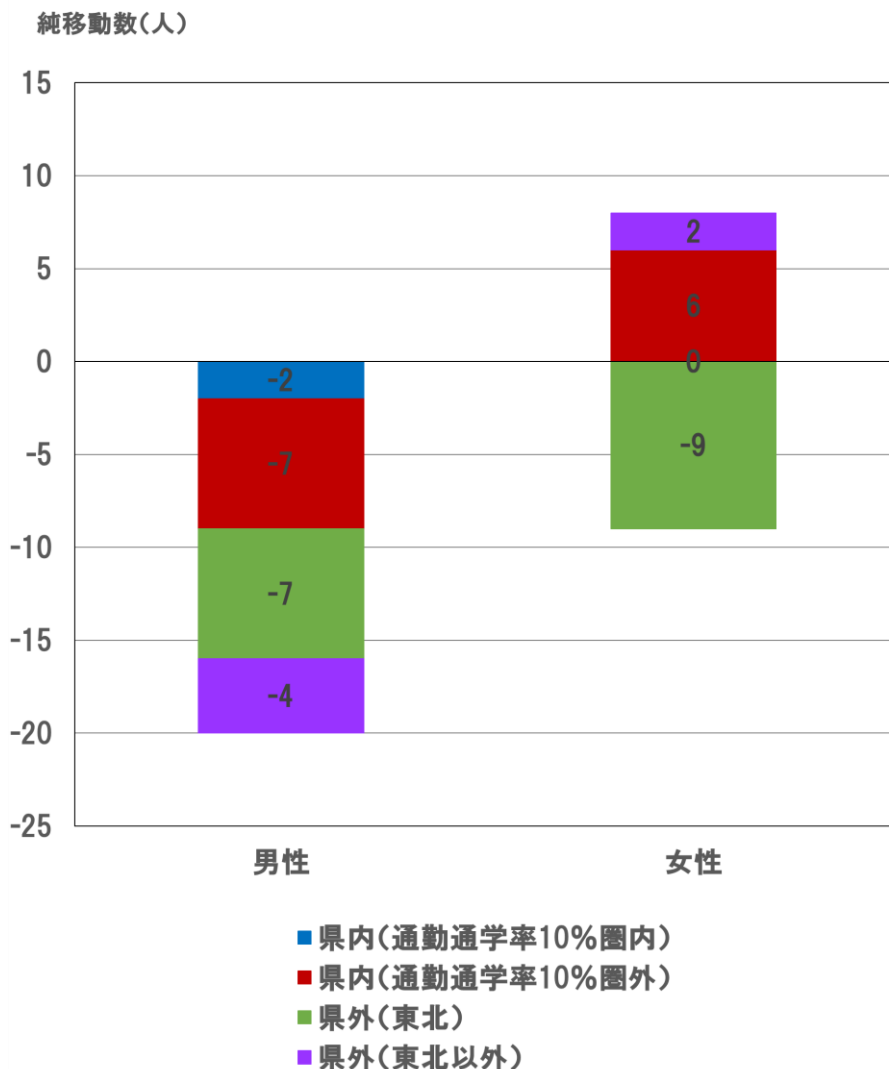
資料：住民基本台帳移動報告

本村の地域4区分別の純移動の状況を見ると、男性においては県内（通勤通学率10%圏外）及び県外（東北）への転出が最も多くなっている。女性においては、県内（通勤通学率10%圏外）及び県外（東北）への転出が多く、男女ともに県外（東北）からの転入を上回っている。

5歳階級別にみると、男性においては、20～24歳、25～29歳において、大幅な転出超過となっています。女性においては、男性と比べどの年代においても転出超過の傾向にあるが、15～19歳、20～24歳、25～29歳において、大幅な転出超過となっている。

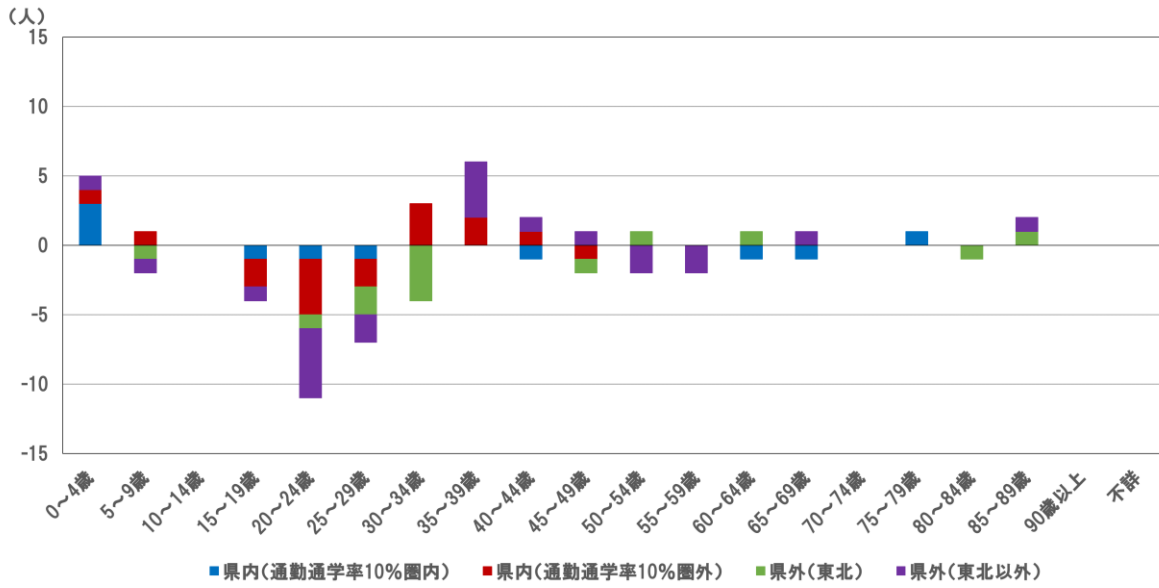
地域ブロック別にみると、男性は県外への転出が多い傾向があるのに対し、女性は県内（通勤通学率10%圏内）への転出が多い傾向となっている。

図表 野田村の純移動（令和6（2024）年）



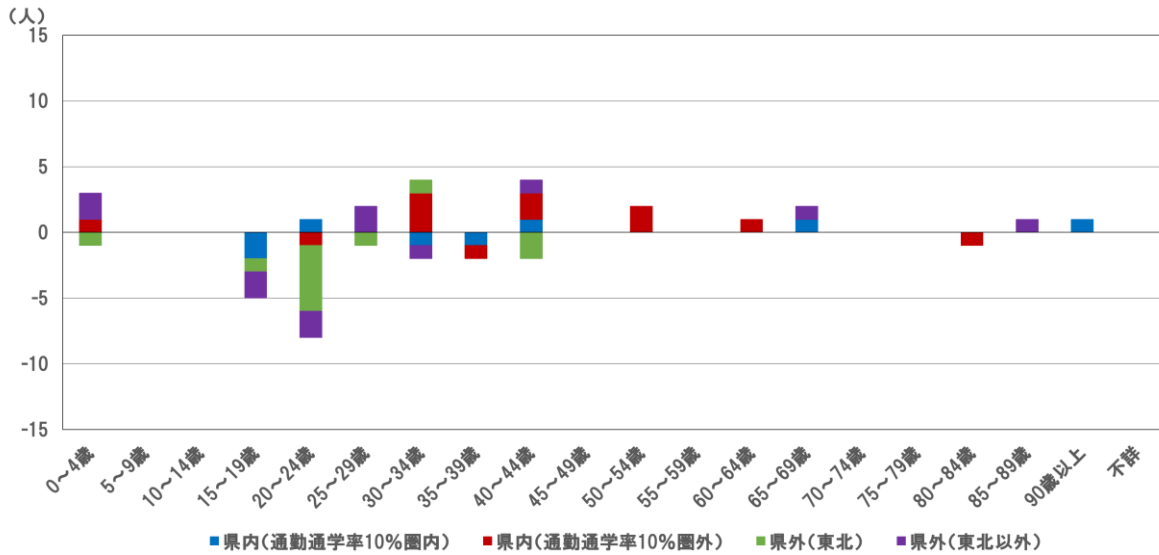
資料：住民基本台帳移動報告

図表 5歳階級別純移動の状況（男性・令和6（2024）年）



資料：住民基本台帳移動報告

図表 5歳階級別純移動の状況（女性・令和6（2024）年）

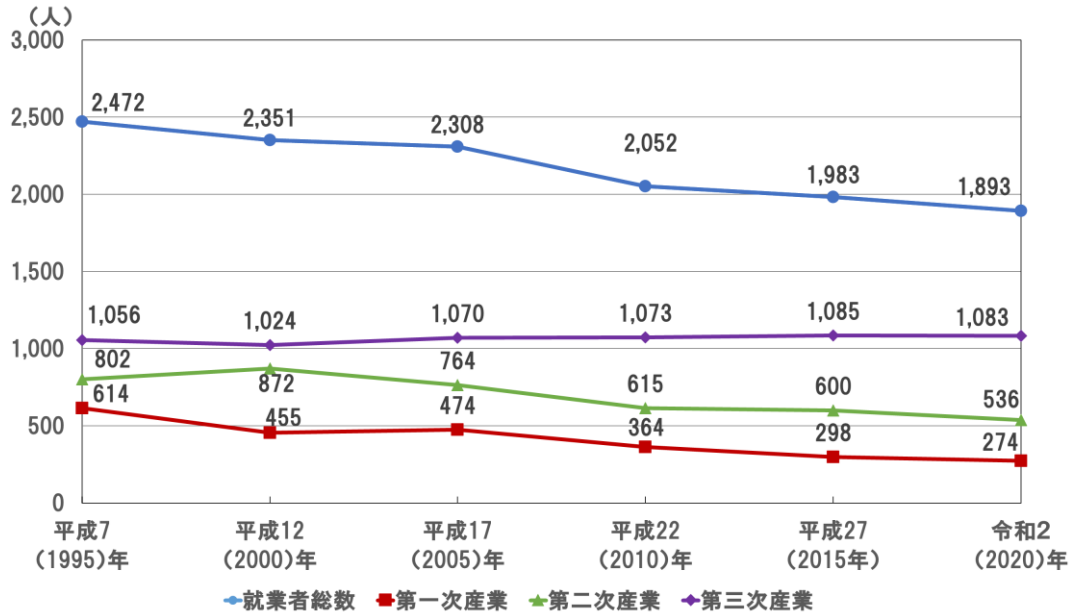


資料：住民基本台帳移動報告

3-3 産業別就業・雇用に関する人口分析

本村の産業別就業人口を見ると、第一次産業及び第二次産業は減少傾向にあるが、第三次産業は緩やかな増加傾向にある。村全体の就業人口は減少傾向が続いており、雇用が減少していることが読み取れる。

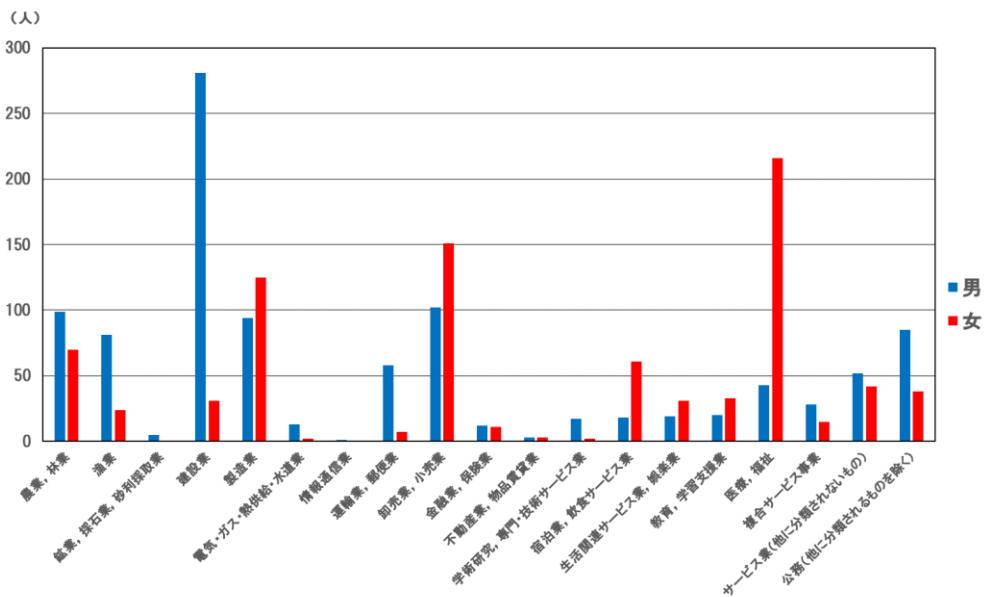
図表 産業別就業人口（15歳以上）



資料：国勢調査

男女別産業人口を見ると、男性は建設業の就業者が最も多くなっており、次に卸売業、小売業、農業、林業が多い傾向にある。女性は、医療、福祉の就業者数が最も多く、次に卸売業、小売業、製造業が多くなっている。

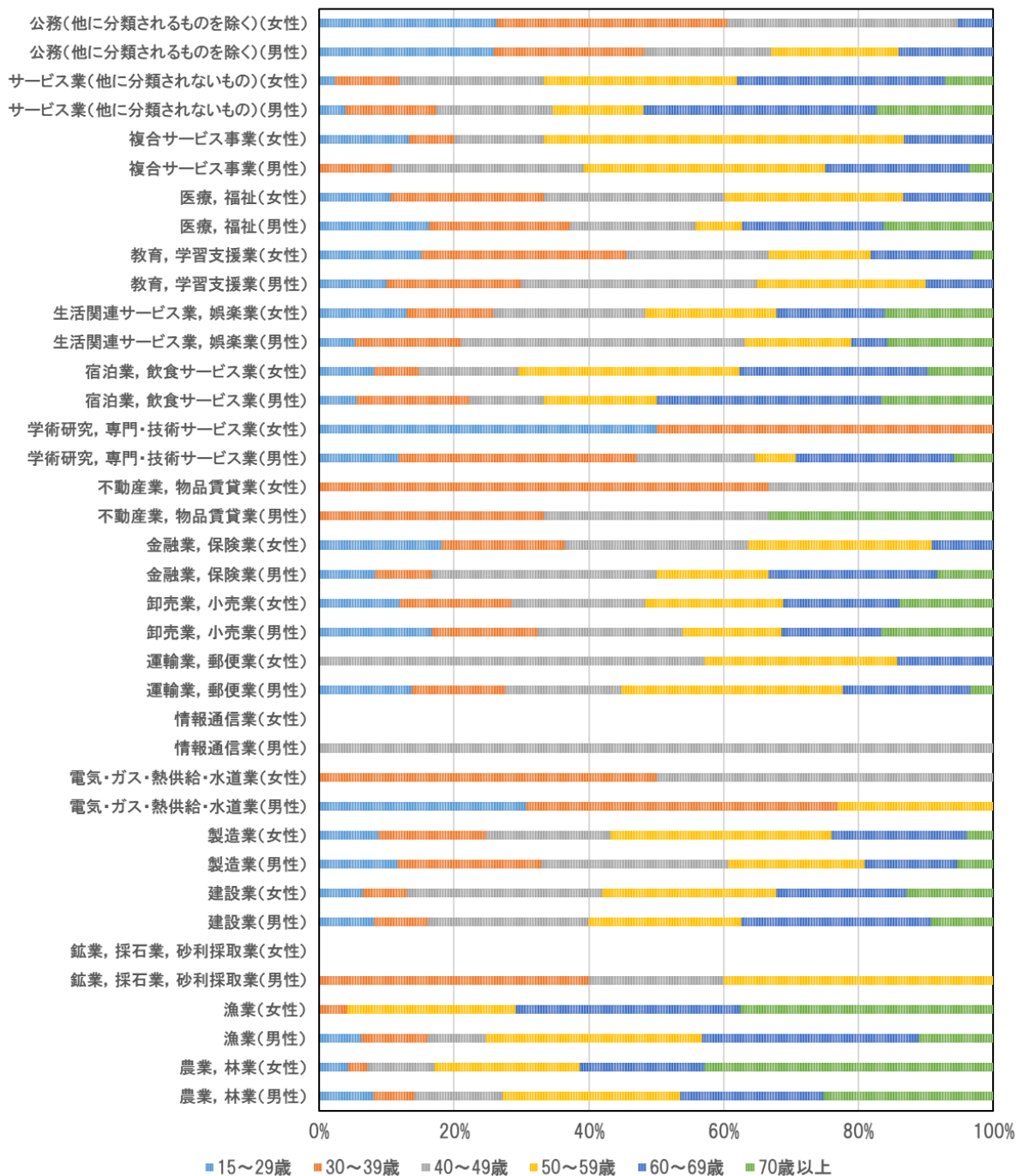
図表 男女別産業人口（令和2（2020）年10月1日現在）



資料：国勢調査

主な産業別に男女別就業者の年齢階級を見ると、他の産業と比較して、農業・林業・漁業等の第一次産業における60歳以上が占める割合が男女とも半数近くを占めており、高齢化が進んでいることが分かる。

図表 年齢階級別産業人口



資料：国勢調査

4 人口の将来展望

4-1 現状及び目指すべき将来の方向

(1) 現状と課題の整理

本村においては、昭和 45（1970）年までは人口が増加傾向にありましたが、その後減少傾向に転じており、年少人口及び生産年齢人口の減少が進む一方で、老年人口が増加している。令和 32（2050）年には 2,104 人まで減少することが予測されており、将来的により一層の高齢化及び少子化が進むとされている。

この人口減少の背景としては、生産年齢人口の進学や就職・結婚により近隣都市へ流出した後、本村へ戻ってきていないことが考えられる。

合計特殊出生率は令和 5（2023）年に 1.40 と全国平均及び県平均より高い水準にある一方、特に 20 代～30 代前半の既婚率が低い現状にあることから、晩婚化や未婚化が進んでいることも人口減少の一因と捉えられる。

農業・林業・漁業等の第一次産業を基礎とする本村の産業についても、就業者の高齢化や就業人口の減少が進み、後継者不足への対応が課題となっており、今後、人口減少が進むと、労働力不足の深刻化及びそれに伴う生産量の低下が懸念されるとともに、個人消費、地域内消費の縮小による地域経済の縮小も懸念される。

さらに、高齢化の進行により医療・福祉や公共交通機関へのニーズが高まる一方で、それを支える人材不足、財政負担の増大なども、今後起こりうると懸念される。

このような状況の中、村民が望む野田村の未来の姿としては、豊かな自然が守られるとともに、産業が発展し、安定した雇用が確保されており、かつ子育てしやすい環境や交通の利便性、商業集積が図られたまちが求められている。

(2) 目指すべき将来の方向

人口減少を正面から受け止め、人口規模が減少しても地域経済の成長や地域社会を維持するために本村が目指すべき将来の方向として、次の 3 つの方向を示し、取組を進めていくこととする。

①産業振興により地域における安定した雇用を創出する ～人口の流出減～

本村の特徴である豊かな自然や食などを活かした産業の発展を図るとともに、第一次製品の生産量を増やすことで雇用の創出を目指し、野田村で働きたい若者の雇用の確保を推進する。

②若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶えるとともに時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する ～暮らしやすい村づくり～

本村で多くの人が子どもを生み育て、住み続けることができるよう、若い世代にとって魅力ある住宅を確保するなど、多様化するニーズにこたえ、野田村に住みたいと考える若い世代の様々な希望を叶える。

また、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

さらに、本村に住むだれもが、いつまでも安心して暮らすことのできるよう、住民同士が支え合うとともに、村内外の人々が集い、地域が連携し、高め合うコミュニティの形成を実現する。

③地域への新しい人の流れをつくり出す ～人口の流入増～

本村が有する豊富な地域資源を活用し、その魅力を高め、広く発信していくことにより、人々が集い、住まう、交流のあるまちを実現する。

4-2 将来人口の推計

本村の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」といいます。）の推計によると、令和 22（2040）年には 2,667 人になると見込まれており、更に令和 32（2050）年には 2,104 人まで減少すると予測されているが、この推計は何ら対策を講じなかった場合の人口推計である。

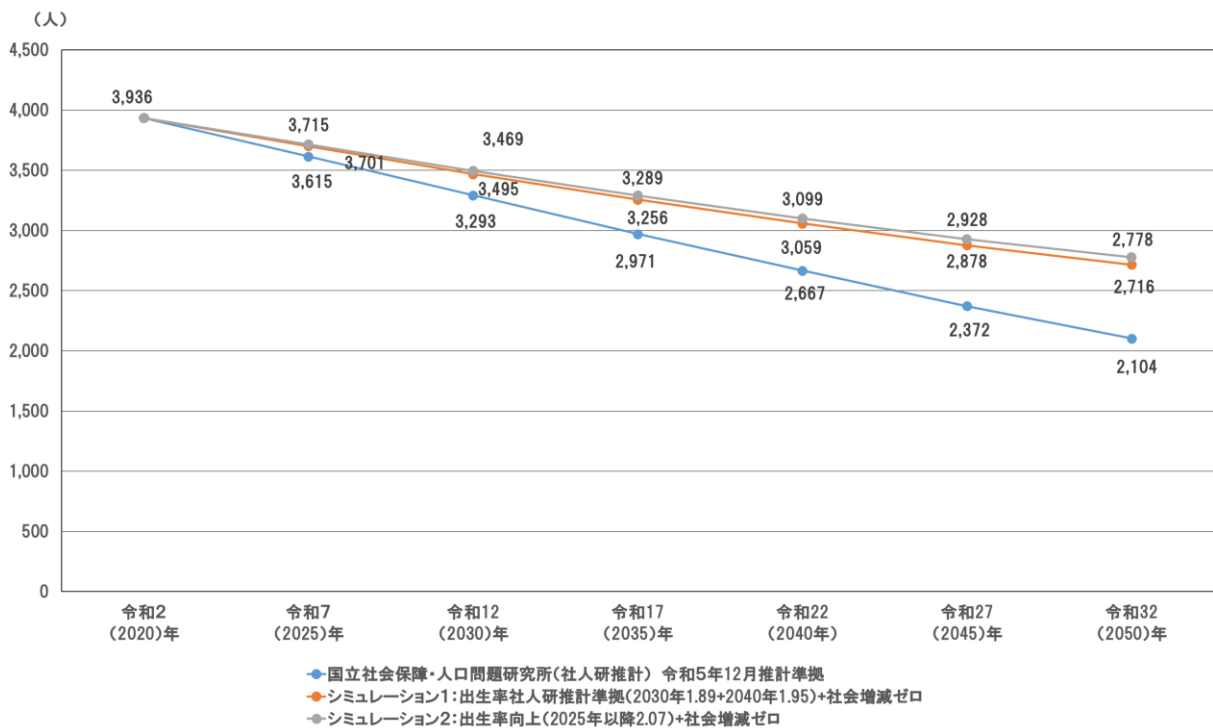
そこで、本村の将来人口に及ぼす自然増減や社会増減の影響を分析するため、社人研推計を準拠し、以下の 2 つの仮定を用いてシミュレーションを行ったところ、令和 32（2050）年において、シミュレーション 1 では 2,716 人、シミュレーション 2 では 2,778 人となった。いずれも社人研推計から 600 人以上の増加が見込まれるが、シミュレーション 1 とシミュレーション 2 において、大幅な変化が見られないことから、出生率の上昇と比較して、社会増減の方がより将来人口に対して大きな影響を及ぼすものと見込まれるところ。

図表 シミュレーションの内容

シミュレーション 1	社人研推計準拠において、令和 7（2025）年以降、社会増減ゼロが継続し、かつ出生率が社人研推計による見込値（令和 12（2030）年 1.89+令和 22（2040）年 1.95）に達した場合
シミュレーション 2	社人研推計準拠において、令和 7（2025）年以降、社会増減ゼロが継続し、かつ出生率が国が示す人口置換水準※である 2.07 に達し継続した場合。

※人口置換水準とは、人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準のことをいう。

図表 社人研推計に基づく将来人口のシミュレーション



4-3 人口の将来展望

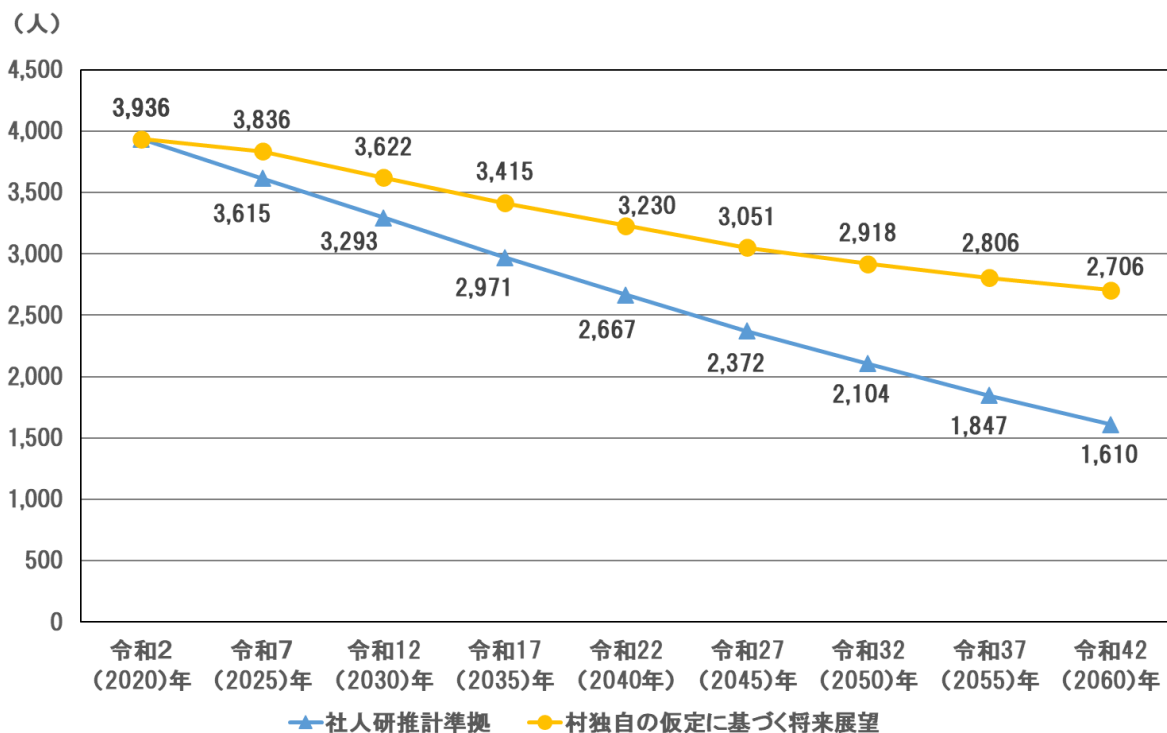
本村の将来人口は、社人研推計や社人研推計を準拠したシミュレーションのいずれの結果においても、令和 32（2050）年に 3,000 人を割り込むことが予測される。

本村では、人口減少が続く事態を正面から受け止め、人口規模が縮小しても地域経済の成長や地域社会を維持できる野田村をめざし、「野田村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進することにより、次の仮定を実現し、令和 22（2040）年に 3,230 人、令和 32（2050）年に 2,918 人、令和 42（2060）年に 2,706 人の人口を確保することを目指す。

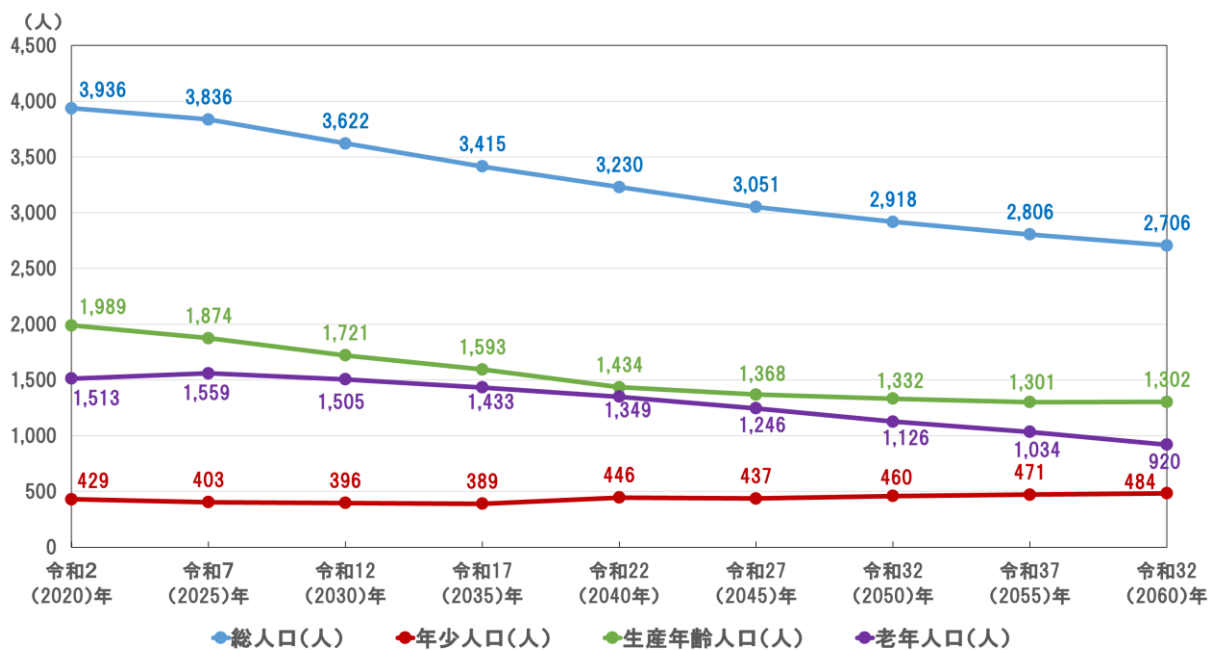
<将来展望に関する仮定>

- ・ 令和 7 年度の人口について、社人研推計の推計値（3,615 人）と実際に村の住民基本台帳に登録されている数値（3,836 人）に差が生じていることから、令和 7 年度の数値について、村の住民基本台帳の数値を採用し、人口推計を行う。
- ・ 合計特殊出生率は、令和 7（2025）年に 2.6 まで上昇し、以降も同水準を継続。
- ・ 社会増減ゼロ。

図表 総人口の将来展望



図表 年齢3区分別人口の将来展望



	令和2 (2020)年	令和7 (2025)年	令和12 (2030)年	令和17 (2035)年	令和22 (2040)年	令和27 (2045)年	令和32 (2050)年	令和37 (2055)年	令和42 (2060)年
総人口	3,936	3,836	3,622	3,415	3,230	3,051	2,918	2,806	2,706
年少人口	429 (10.9%)	403 (10.5%)	396 (10.9%)	389 (11.4%)	446 (13.8%)	437 (14.4%)	460 (15.7%)	471 (16.8%)	484 (17.9%)
生産年齢人口	1,989 (50.5%)	1,874 (48.9%)	1,721 (47.5%)	1,593 (46.7%)	1,434 (44.4%)	1,368 (44.8%)	1,332 (45.7%)	1,301 (46.4%)	1,302 (48.1%)
老年人口	1,513 (38.4%)	1,559 (40.6%)	1,505 (41.6%)	1,433 (41.9%)	1,349 (41.8%)	1,246 (40.8%)	1,126 (38.6%)	1,034 (36.8%)	920 (34.0%)

※令和2年の国勢調査結果においては、年齢不詳（5人）がいるため、「総人口」と「年少人口・生産年齢人口・老年人口の合算値」の値が異なるもの。

4-4 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

(1) 産業経済の状況

●就業人口の減少により、地域の産業・経済の縮小等が予測される

本村は、農業・林業・漁業等の第一次産業が盛んであるが、近年、就業人口は減少傾向にあり、平成22(2010)年から令和2(2020)年の10年間に90人減少した。第三次産業では増加傾向にあるが、第二次産業においても就業人口の減少傾向が見られ、総じて就業人口が減少していることから、地域の産業・経済の縮小などが予測される。

(2) 地域の産業における人材(人手)の過不足状況

●生産年齢人口の減少に伴う従業員の高齢化や後継者不足により、技術や事業の伝承が困難となるとともに、医療、福祉、介護に携わる専門の人材の不足が懸念される

令和2(2020)年に人口の5割を超えていた生産年齢人口は、令和30(2050)年には4割程度まで低下するとされており、生産年齢人口の減少に伴う従業員の高齢化や後継者不足により、技術や事業の伝承が困難となることが予測される。また、農業・林業・漁業等の第一次産業における高齢化が進んでおり、担い手の育成が課題となっている。

加えて、後期高齢者の増加により、医療、福祉、介護の需要が増加すると見込まれる一方で、それらに携わる専門の人材の不足が懸念される。

(3) 都市構造に関する状況

●高齢者の増加により地域公共交通の需要が高まる一方、利用者の減少による経営への影響が予測される

本村には、三陸鉄道北リアス線や、村営バスがあり、村の東端を国道45号が走っている。また、三陸沿岸道路野田インターチェンジが整備され、交通のアクセスが改善しているが、今後、高齢者の増加により地域公共交通の需要が高まることが予想される。一方で、人口減少に伴う生産年齢人口の減少は、通勤(通学)等の利用の減少につながり、公共交通機関の経営に影響を及ぼすと予測される。

(4) 公共サービスに関する状況

●人口減少等の理由による税収の減収が見込まれる中、公共施設・インフラの効率的な維持管理・運営が必要となる

公共施設・インフラの老朽化への対応が必要となってきた中、施設の維持管理費、補修費の増大が大きな課題となっている。今後、人口減少等の理由により税収の減収が見込まれる中、より一層の効率的な維持管理・運営が必要となる。

(5) 地域の産業経済に与える影響

●生産年齢人口の減少により、労働力不足と生産量の低下が懸念される

生産年齢人口の減少に伴い、労働力不足が深刻化するとともに、それに伴う生産量の低下が懸念される。また、総人口の減少により、個人消費、地域内消費が縮小し、地域経済の縮小等につながる懸念される。

(6) 住民生活に与える影響

- 人口の流出や高齢化による住民サービスの縮小、および地域活動の担い手の減少による地域社会の機能低下が危ぶまれる

転出超過に伴う人口の流出や高齢化により、小売や飲食、医療等の住民サービスが縮小し、日常生活が不便になる恐れがある。また、地域活動の担い手の減少も予測され、自治会や消防団といった地域の自主的な活動が低下し、地域社会の機能低下が危ぶまれる。

(7) 財政に与える影響

- 少子高齢化の進展による社会保障関連費の増加が見込まれる一方、生産年齢人口の減少による税収の減収が予想される

少子高齢化の進展にともない、医療費負担の増加や社会保障関連費の増加など、将来的に住民負担及び行政負担が増加することが見込まれる。一方、生産年齢人口の減少により、税収の減少が見込まれる。

5 おわりに

野田村人口ビジョンは、人口減少を緩やかにするための目指すべき将来の方向性と、本村の総人口が令和 42（2060）年に 2,706 人となる将来展望を示している。総人口は今（令和 7 年）より 1,100 人ほど少なくなるが、人口減少を増加に転じさせることはもとより、緩やかな減少を目指すことすら極めて困難と予測されている中、これを実現させるためには、多くの課題を解決していく必要がある。

本ビジョンで示す将来展望は、課題を解決するために行う施策を実施した結果を反映し、目指すべき目標人口として掲げたものである。その実現に向けて、本村では、人口減少対策や地方創生の取り組みを一体的に推進するため、「野田村総合計画」や「野田村まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、人口減少が続く事態を正面から受け止め、人口規模が縮小しても地域経済の成長や地域社会を維持でき、本村の恵まれた環境において村民のみなさんがいきいきと住み続けられるよう、地域のみなさんと共に取り組んでいく。

第2編

計画策定の経過
及び策定委員会名簿等

第1章 計画策定の経過

「野田村総合計画 野田村まち・ひと・しごと創生総合戦略 野田村国土強靱化地域計画（以下の表において、「総合計画等」という。）は、野田村総合計画策定委員会を中心として、21世紀むらづくり委員会の審議を踏まえて策定した。

「野田村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下の表において「総合戦略」という。）」及び「野田村国土強靱化地域計画（以下の表において「国土強靱化計画」という。）」は、「野田村総合計画（以下の表において「総合計画」という。）」の策定事務と並行して進めた。

年 月 日	内 容
令和7年4月30日	総合計画策定に係る検討会議 ※庁内会議において総合戦略及び国土強靱化地域計画と合冊して計画策定することを決定、内部・外部協議の方針検討
令和7年5月21日	村政調査会において総合計画等の説明及び特別委員の説明 野田村総合計画策定委員会規定の一部改正 ※特別委員規定を追加
令和7年6月20日	第1回 21世紀むらづくり委員会 全体会 総合計画の説明（特別委員の報告、スケジュール等）
令和7年7月25日	第1回 野田村総合計画策定委員会幹事会 総合計画策定事務の説明
令和7年8月1日	第1回 野田村総合計画策定委員会 基本構想素案、基本計画策定事務、村民アンケート等を審議
令和7年6～8月	住民懇談会にて村民アンケートの説明、協力依頼
令和7年8月15日	村政調査会において基本構想及び村民アンケート実施の説明
令和7年8月29日 ～9月26日	村民アンケートを行政連絡員を通じて配布 村民アンケート回収期間
令和7年9月24日	第2回 野田村総合計画策定委員会幹事会 基本計画素案等の協議
令和7年10月2日	第2回 野田村総合計画策定委員会 基本構想修正、基本計画素案、主要事業・総合戦略・国土強靱化計画策定事務等を審議
令和7年10月15日	第1回 21世紀むらづくり委員会 総務・住民福祉部会 特別委員任命書交付、審議事項の諮問、基本構想・基本計画素案、主要事業・総合戦略・国土強靱化計画策定事務等を審議
令和7年10月22日	第1回 21世紀むらづくり委員会 産業振興・地域整備部会 ※審議内容は、上記総務・住民福祉部会と同じ
令和7年11月17日	第3回 総合計画策定委員会幹事会 村民アンケート結果報告、主要事業計画素案、総合戦略構成案、国土強靱化計画素案を審議

年 月 日	内 容
令和7年11月27日	第3回 総合計画策定委員会 村民アンケート結果報告、主要事業計画素案、総合戦略構成案、国土強靱化計画素案、財政見通し等を審議
令和7年12月5日	議員全員協議会において村民アンケート結果の報告
令和7年12月17日	第2回 21世紀むらづくり委員会 総務・住民福祉部会 村民アンケート結果報告、主要事業計画・総合戦略・国土強靱化計画素案、財政見通し等を審議
令和7年12月22日	第2回 21世紀むらづくり委員会 産業振興・地域整備部会 ※審議内容は、上記総務・住民福祉部会と同じ
令和8年1月15日	村政調査会において総合計画等の原案を説明
令和8年1月30日	第4回 総合計画策定委員会 総合計画等の原案を審議
令和8年2月10日	第2回 21世紀むらづくり委員会 全体会 各部会の審議結果報告、総合計画等の原案を審議し、答申。
令和8年2月24日	総合計画における議決事項（基本構想・基本計画）を3月定例議会に議案提出。
令和8年3月4日 ～3月13日	3月定例議会
令和8年4月	策定した総合計画等を公表（野田村公式ウェブサイト）

第2章 策定委員会名簿等

第1節 野田村総合計画策定委員会委員名簿

職名	氏名	備考
副 村 長	小谷地 鉄也	委員長
教 育 長	菊 地 理	副委員長
総 務 課 長	大 沢 勝 利	
住 民 生 活 課 長	松 頭 容 子	
保 健 福 祉 課 長	神 田 康 弘	
産 業 振 興 課 長	貳 又 正 貴	
会 計 管 理 者 兼 税 務 課 長	小 屋 畑 浩 明	
地 域 整 備 課 長	前 川 満	
未 来 づ く り 推 進 課 長	小 野 寺 輝 彦	
議 会 事 務 局 長	中 野 俊 男	
教 育 次 長	明 内 和 重	
特 別 委 員 岩手県立大学総合政策部 教授	新 田 義 修	産業振興
特 別 委 員 東北福祉大学共生まちづくり学部 教授	石 塚 裕 子	地域づくり

第2節 野田村総合計画策定委員会幹事会幹事名簿

職名	氏名	備考
総 務 課 長	大 沢 勝 利	幹事長
産 業 振 興 課 長	貳 又 正 貴	副幹事長
総務課庶務防災班総括主査	八 幡 重 光	
住民生活課住民生活班総括主査	小 林 潤	
保健福祉課福祉班総括主査	上 山 晃	
産業振興課農林班総括主査	北 田 圭 太	
税務課税務班総括主査	前 川 浩 一	
地域整備課上下水道班総括主査	高 田 光 晴	
未来づくり推進課未来づくり推進班総括主査	菅 崎 裕 平	
出納室会計班主査	大 沢 洋 晃	
監査委員書記主査	畑 田 純 一	
教育委員会事務局主幹兼学校教育班総括主査	古 山 秋 男	

第3節 21世紀むらづくり委員会名簿

部会名	職名	氏名	所属	備考	
総務部会 (7人)	部会長	鈴木 淳市	野田村漁業協同組合		
	副部会長	新山 イネ子	野田村生活研究グループ		
			米田 俊幸	第3地区(下・上泉沢、中平、南浜)	委員長
			外館 ミツエ	新岩手農業協同組合 女性部久慈支部南分会	
			大沢 伸子	野田村むらづくり運動推進協議会	
			南川 正樹	野田小学校PTA	
			大沢 剛	野田中学校PTA	
住民福祉部会 (7人)	部会長	小原 裕樹	野田白寿会		
	副部会長	根井 まき子	野田村保育会		
			明内 清一	第5地区(門前小路、前田小路、横町)	
			野崎 泰斗	第7地区(下・上明内)	
			中野 日和	野田村青年会	
			柏木 貴美子	特定非営利活動法人 風花	副委員長
			澤口 栄一	野田村社会福祉協議会	
産業振興部会 (7人)	部会長	安藤 正樹	野田漁友会		
	副部会長	中野 琢磨	第4地区(新町、本町、旭町)		
			中村 一彦	第1地区(大葛、種綿、間明、日形井)	
			畑村 和也	野田村森林組合	
			島川 良文	下安家漁業協同組合	
			北田 雅徳	野田村商工会青年部	
			北田 一子	野田村商工会女性部	
地域整備部会 (7人)	部会長	玉川 勝愛	第8地区(玉川、玉鉾、根井、下安家)		
	副部会長	米田 博樹	第2地区(米田、和野平、沢山)		
			檜見 幸雄	第3地区(下・上泉沢、中平、南浜)	
			小谷地 英正	第4地区(北区、愛宕町)	
			野崎 誠孝	第6地区(中沢、広内、港、下・中・上新山)	
			吉田 照夫	野田村老人クラブ連合会	
			道上 文明	住民(一般公募)	
特別委員		小野寺 光男	野田村議会議員 総務教民常任委員長		
		中川 昇	野田村議会議員 産業常任委員長		
		新田 義修	岩手県立大学総合政策部 教授	産業振興	
		石塚 裕子	東北福祉大学共生まちづくり学部 教授	地域づくり	

第4節 事務局名簿

1 野田村総合計画

職名	氏名	備考
総務課長	大沢勝利	
総務課財政班総括主査	小野寺修一	
総務課財政班主事	川崎雄海	
総務課財政班主事	館下ひかる	

2 野田村まち・ひと・しごと創生総合戦略

職名	氏名	備考
未来づくり推進課長	小野寺輝彦	
未来づくり推進課未来づくり推進班総括主査	菅崎裕平	

3 野田村国土強靱化地域計画

職名	氏名	備考
総務課長	大沢勝利	
総務課庶務防災班総括主査	八幡重光	
総務課庶務防災班主査	下向大介	
総務課庶務防災班主事	大西翔也	

第3編

村民アンケートの結果

村民アンケートの結果

今後のむらづくりについてご意見を伺い、計画策定の参考とするため、令和7年8月に無作為抽出した村民1,459人に村民アンケートを実施した。

なお、表中の ■ は各区分で最も高い数値であり、 ■ は最も低い数値である。

第1節 回収結果

回収結果は以下のとおり。前回（R2.6月）の村民アンケートとの違いは、全世帯アンケートから無作為抽出した個人に変更していること、アンケート用紙が1ページから9ページに増量していることが挙げられる。

配布数	回収数	回収率
1,459人（1,484世帯）	753人（856世帯）	50.93%（57.6%）

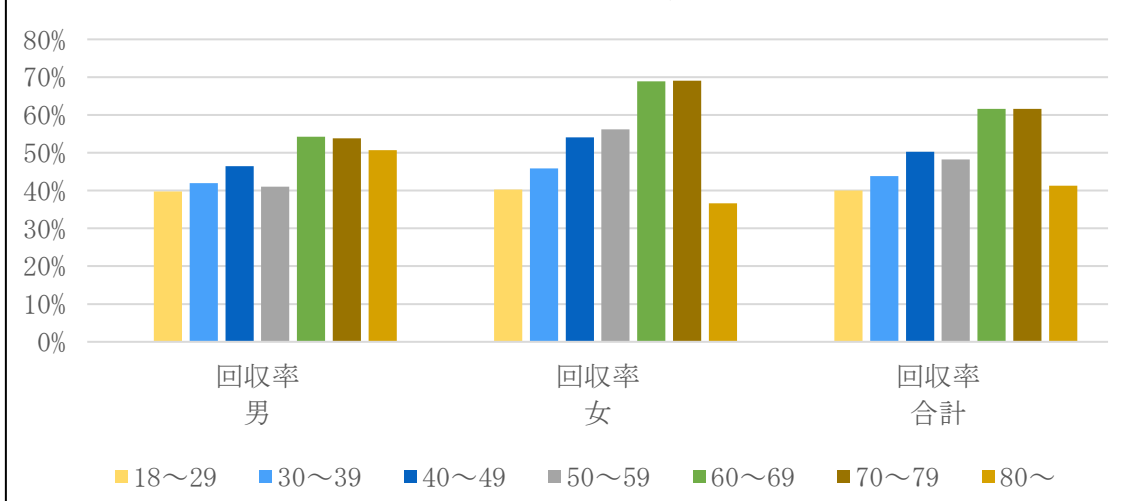
※括弧内は、前回の村民アンケート回収結果

表1 年齢・性別区分の回収結果

単位：人、%

区分	発送数			回収数				回収率		
	男	女	合計	不明	男	女	合計	男	女	合計
18-29	83	67	150	0	33	27	60	39.76	40.30	40.00
30-39	93	85	178	0	39	39	78	41.94	45.88	43.82
40-49	99	98	197	0	46	53	99	46.46	54.08	50.25
50-59	117	105	222	0	48	59	107	41.03	56.19	48.20
60-69	118	119	237	0	64	82	146	54.24	68.91	61.60
70-79	119	126	245	0	64	87	151	53.78	69.05	61.63
80～	77	153	230	0	39	56	95	50.65	36.60	41.30
不明	/	/	/	5	1	1	7	/	/	/
合計	706	753	1,459	5	334	404	743	47.31	53.65	50.93

グラフ1 年齢・性別区分の回収率



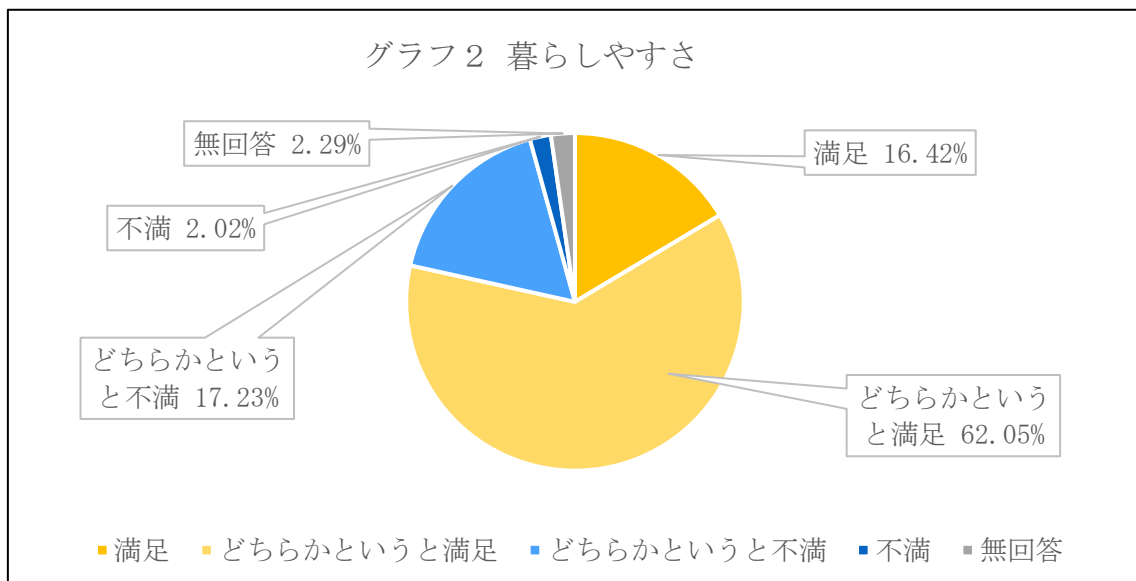
第2節 野田村の暮らしやすさ

野田村の暮らしやすさでは、78.47%が「満足」「どちらかという満足」を選択しており、19.25%が「不満」「どちらかという不満」を選択している。

表2 年齢区分ごとの暮らしやすさの満足度

単位：人、%

区分	満足	どちらかという満足	どちらかという不満	不満	無回答	回収数合計
18-29	15	30	10	4	1	60
30-39	12	52	12	2	0	78
40-49	16	58	24	1	0	99
50-59	16	69	17	1	4	107
60-69	13	103	29	1	0	146
70-79	27	90	27	4	3	151
80～	21	58	9	2	5	95
不明	2	1	0	0	4	7
合計	122	461	128	15	17	743
割合	16.42	62.05	17.23	2.02	2.29	100.00



<自由意見の要約>

- ・ 子育て、医療、福祉の支援が手厚いのがよい。(20～40代女性)
- ・ 知り合いが多く、安心して暮らせている。(40～70代女性)
- ・ 村内での買い物だと高いし少ない。病院の通院など交通が不便。(各年代複数)
- ・ 仕事をする場所や飲食店が少ない。(40～60代男性)

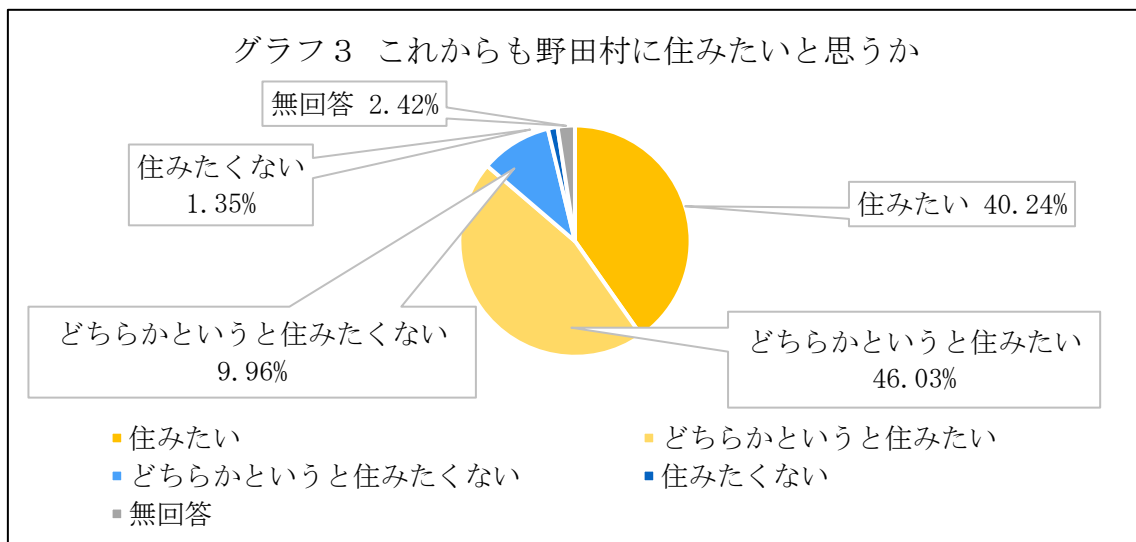
第3節 これからも野田村に住みたいと思うか

今後の野田村に対する居住意向については、86.27%が「住みたい」「どちらかというに住みたい」を選択しており、11.31%が「住みたくない」「どちらかというに住みたくない」を選択している。

表3 年齢区分ごとの今後の居留意向度

単位：人、%

区分	住みたい	どちらかというに住みたい	どちらかというに住みたくない	住みたくない	無回答	回収数合計
18-29	17	24	17	0	2	60
30-39	23	42	9	4	0	78
40-49	26	53	17	2	1	99
50-59	32	62	9	1	3	107
60-69	59	74	10	1	2	146
70-79	83	54	9	2	3	151
80～	58	31	3	0	3	95
不明	1	2	0	0	4	7
合計	299	342	74	10	18	743
割合	40.24	46.03	9.96	1.35	2.42	100.00



<自由意見の要約>

- ・ 三陸沿岸道路によりアクセスが良くなり、子育て支援が充実している。(20～50代女性)
- ・ 自然豊かで、家族や友人もいて、ふるさとであり、安心して生活できる。(60代～共通)
- ・ 車が運転できなくなったり、病気をしたりなど老後が不安。(30～60代女性)
- ・ 家があり、行く所もないので、住むしかない。(40代～共通)

第4節 分野ごとの満足度（項目別）

6分野ごとの満足度については、わからない項目や該当しない項目は無回答を可能としていた。

1 産業振興による地域活力の増進をめざして

産業振興分野は、「満足」「どちらかという満足」が34～43%、「不満」「どちらかという不満」は33～44%である。

表4 ①農業の振興

区分	回答数	割合
満足	36	4.85%
どちらかという満足	263	35.40%
どちらかという不満	222	29.88%
不満	31	4.17%
無回答	191	25.71%
合計	743	100.00%

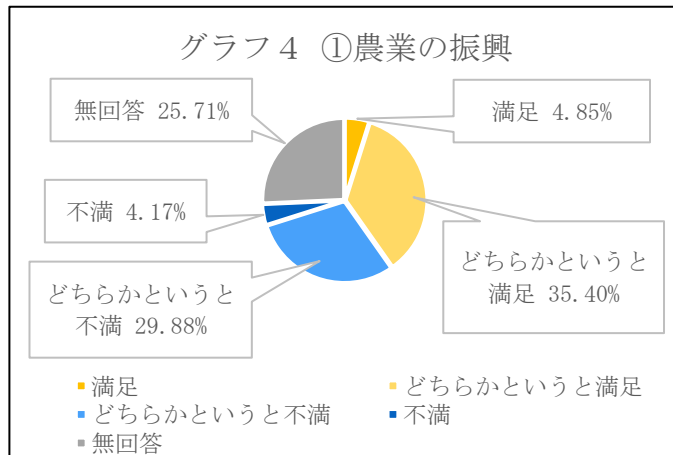


表5 ②林業の振興

区分	回答数	割合
満足	38	5.11%
どちらかという満足	264	35.53%
どちらかという不満	204	27.46%
不満	40	5.38%
無回答	197	26.51%
合計	743	100.00%

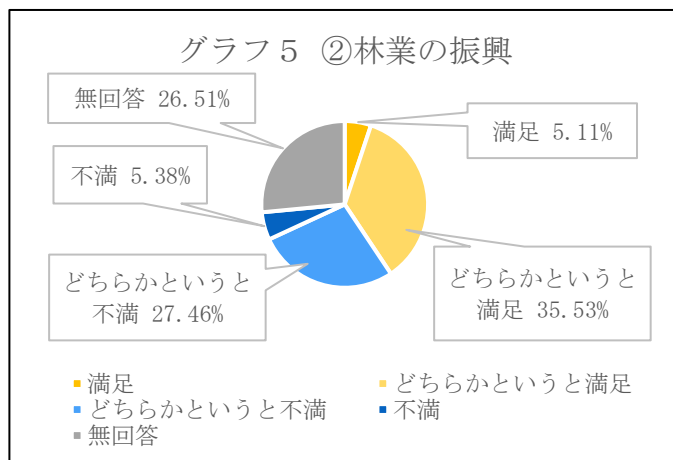


表6 ③水産業の振興

区分	回答数	割合
満足	40	5.38%
どちらかという と満足	235	31.63%
どちらかという と不満	241	32.44%
不満	44	5.92%
無回答	183	24.63%
合計	743	100.00%

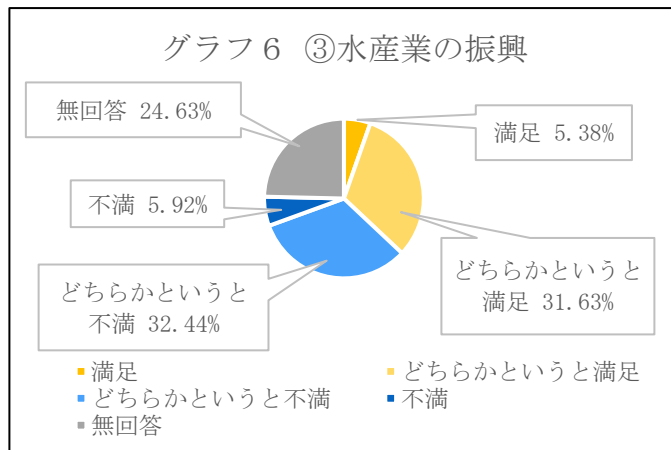


表7 ④商工業の振興

区分	回答数	割合
満足	32	4.31%
どちらかという と満足	218	29.34%
どちらかという と不満	266	35.80%
不満	63	8.48%
無回答	164	22.07%
合計	743	100.00%

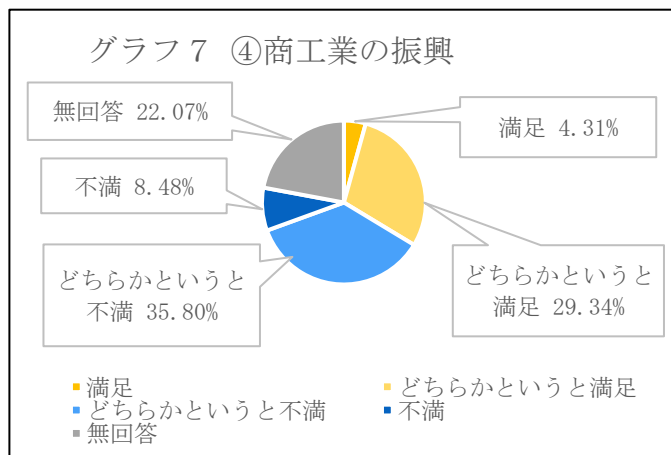
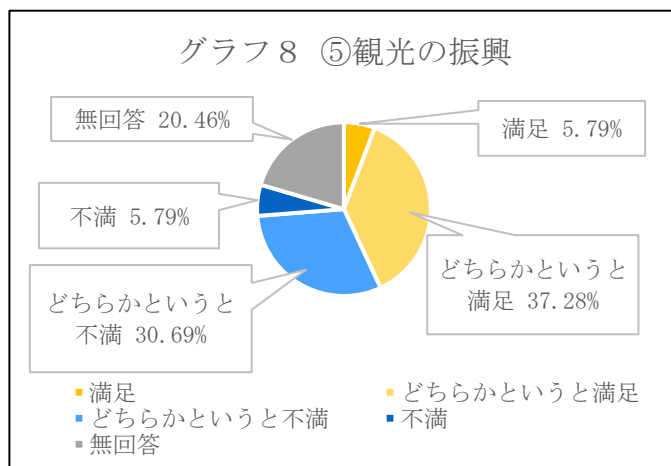


表8 ⑤観光の振興

区分	回答数	割合
満足	43	5.79%
どちらかという と満足	277	37.28%
どちらかという と不満	228	30.69%
不満	43	5.79%
無回答	152	20.46%
合計	743	100.00%



<自由意見の要約>

- ・ 新道の駅、夕方になると野菜がない、もっと地元のものを置いてほしい。(30代)
- ・ 分野ごと個々なので、産業全体でまとまって取りくんだほうがいい。(20代男性)
- ・ ナラ枯れ被害が目立つ。対策が気になる。倒木が心配。(40代～共通)
- ・ 振興品目(水産・農林)の切り替えが必要ではないか。(40代男性)

2 ふるさとを愛し、夢と希望をもって、たくましく創造する人づくりをめざして

教育分野は、「満足」「どちらかという満足」が67～72%、「不満」「どちらかという不満」は12～18%である。

表9 ①小・中学校の教育の充実

区分	回答数	割合
満足	109	14.67%
どちらかという満足	424	57.07%
どちらかという不満	77	10.36%
不満	14	1.88%
無回答	119	16.02%
合計	743	100.00%

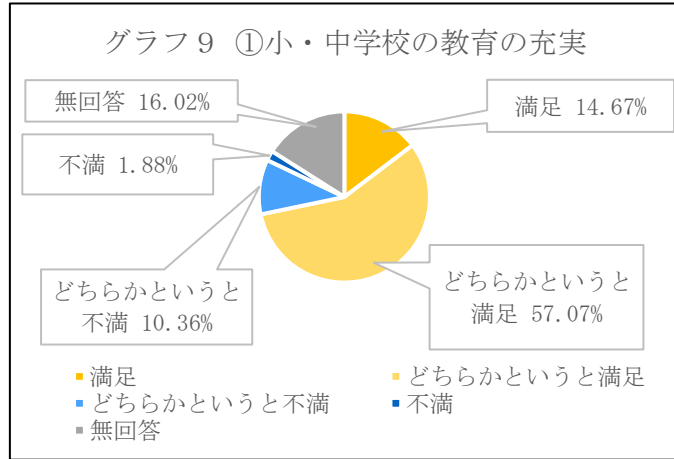


表10 ②生涯学習・生涯スポーツの活発な実施

区分	回答数	割合
満足	92	12.38%
どちらかという満足	412	55.45%
どちらかという不満	114	15.34%
不満	19	2.56%
無回答	106	14.27%
合計	743	100.00%

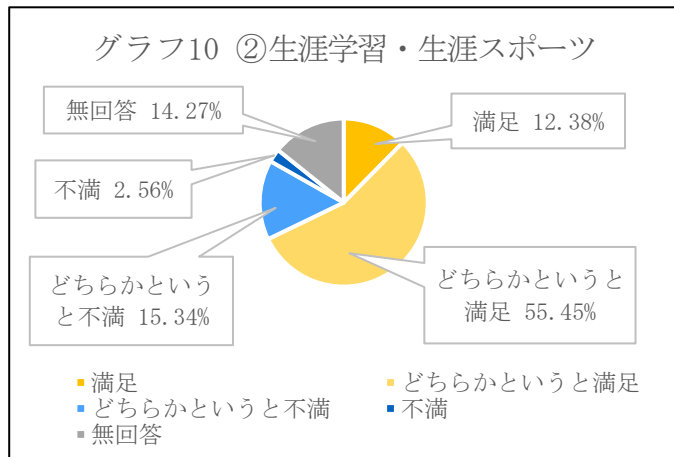
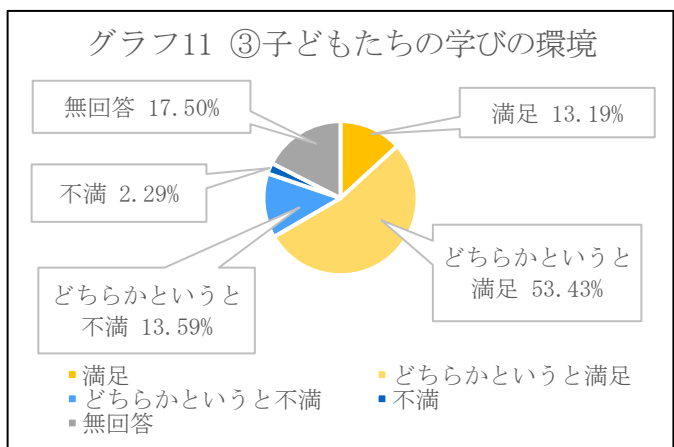


表11 ③子どもたちの学びの環境の充実

区分	回答数	割合
満足	98	13.19%
どちらかという満足	397	53.43%
どちらかという不満	101	13.59%
不満	17	2.29%
無回答	130	17.50%
合計	743	100.00%



<自由意見の要約>

- ・ 小中学生がイベントなどで色々と披露してくれて、村を盛り上げていると感じる。小・中・高の様子は回覧板でよく見ている。(各年代複数)
- ・ 朝の見守りや長期休暇中の放送など子どもを大切にしていると思う。(20~40代女性)
- ・ 避難所でもあるので、体育館にエアコンをつけて欲しい。(20・50代女性、40代男性)
- ・ 小学校が移って、車がすごく多くなった。通学路が狭い。(60代女性)
- ・ 英語、塾、伝統芸能、スポーツ教室などの習い事の充実。(各年代複数)
- ・ スポーツフェスティバルなど地区対抗をやめて欲しい。(30代男性)

3 住民と行政の連携による持続可能なむらをめざして

住民・行政分野は、「満足」「どちらかという満足」が61~72%、「不満」「どちらかという不満」は17~25%である。

表12 ①住民参画の推進

区分	回答数	割合
満足	53	7.13%
どちらかという満足	397	53.43%
どちらかという不満	160	21.53%
不満	27	3.63%
無回答	106	14.27%
合計	743	100.00%

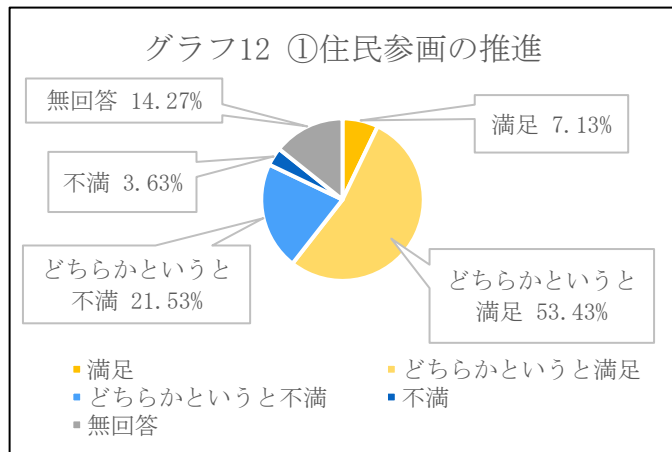


表13 ②行政サービスの充実

区分	回答数	割合
満足	116	15.61%
どちらかという満足	418	56.26%
どちらかという不満	123	16.55%
不満	24	3.23%
無回答	62	8.34%
合計	743	100.00%

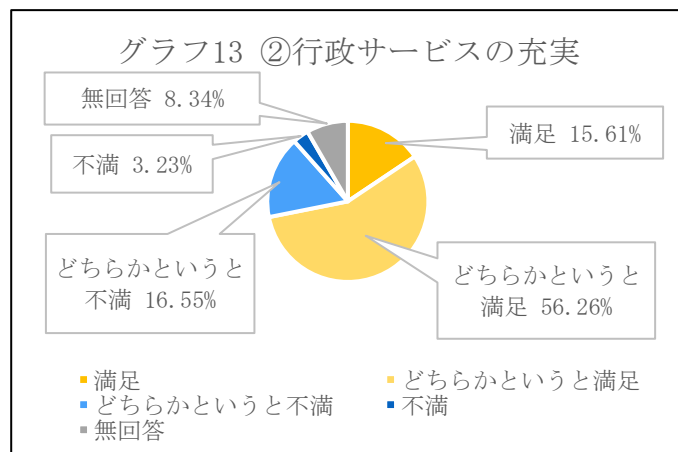
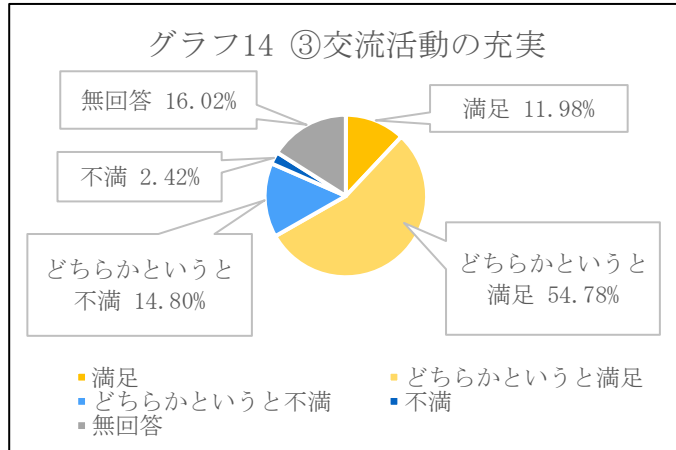


表14 ③交流活動の充実

区分	回答数	割合
満足	89	11.98%
どちらかという満足	407	54.78%
どちらかという不満	110	14.80%
不満	18	2.42%
無回答	119	16.02%
合計	743	100.00%



<自由意見の要約>

- ・ 町内会の集まりなどは特定の人ばかりで、新しい人は参加しづらい。(30代女性)
- ・ 若い世代の町内会活動への参加が低い。(60代女性)
- ・ 現状の町内会や世代間交流では、深まったコミュニケーションを取るのが難しい。防災など共通の問題を話したり活動したりする機会があってもいい。(40代男性)
- ・ 役場と保健センターのどちらに行ったらよいかわかりづらいことがある。(50代女性)
- ・ このアンケートなどもっとWebでの回答や手続きのデジタル化が進んでほしい。(30～40代女性)

4 誰もが安心して暮らせる社会福祉をめざして

社会福祉分野は、「満足」「どちらかという満足」が54～82%、「不満」「どちらかという不満」は8～28%である。

⑦保健体制の推進は82.23%で、6分野31項目の中で最も高い満足度である。

表15 ①地域福祉の充実

区分	回答数	割合
満足	92	12.38%
どちらかという満足	383	51.55%
どちらかという不満	141	18.98%
不満	17	2.29%
無回答	110	14.80%
合計	743	100.00%

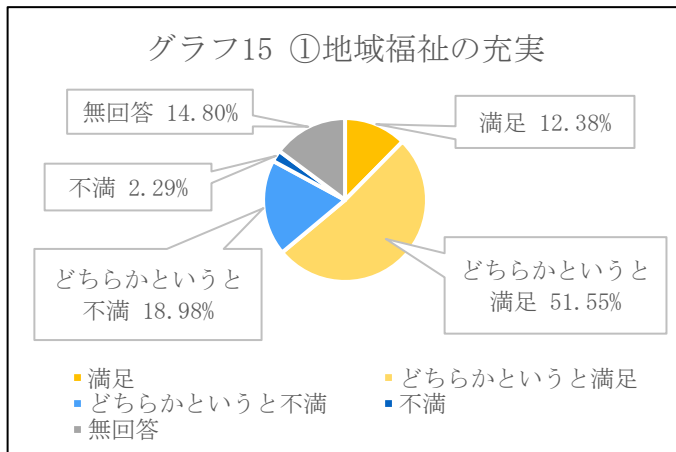


表16 ②少子化対策の充実

区分	回答数	割合
満足	76	10.23%
どちらかという と満足	322	43.34%
どちらかという と不満	176	23.69%
不満	32	4.31%
無回答	137	18.44%
合計	743	100.00%

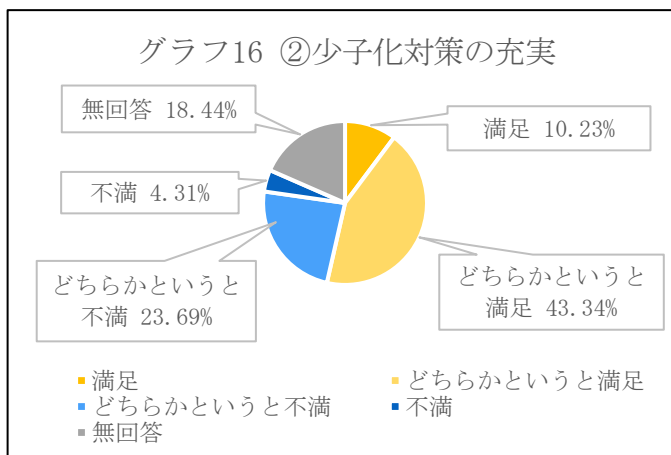


表17 ③子ども・子育て支援の充実

区分	回答数	割合
満足	105	14.13%
どちらかという と満足	390	52.49%
どちらかという と不満	92	12.38%
不満	14	1.88%
無回答	142	19.11%
合計	743	100.00%

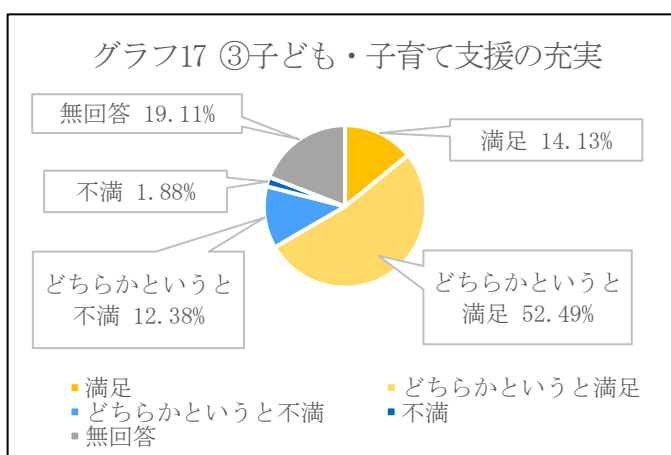


表18 ④高齢者福祉の充実

区分	回答数	割合
満足	82	11.04%
どちらかという と満足	386	51.95%
どちらかという と不満	133	17.90%
不満	21	2.83%
無回答	121	16.29%
合計	743	100.00%

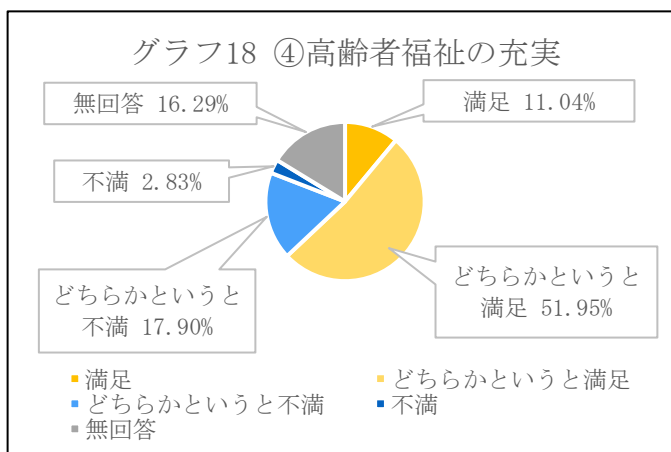


表19 ⑤障がい者（児）福祉の充実

区分	回答数	割合
満足	71	9.56%
どちらかという満足	353	47.51%
どちらかという不満	128	17.23%
不満	18	2.42%
無回答	173	23.28%
合計	743	100.00%

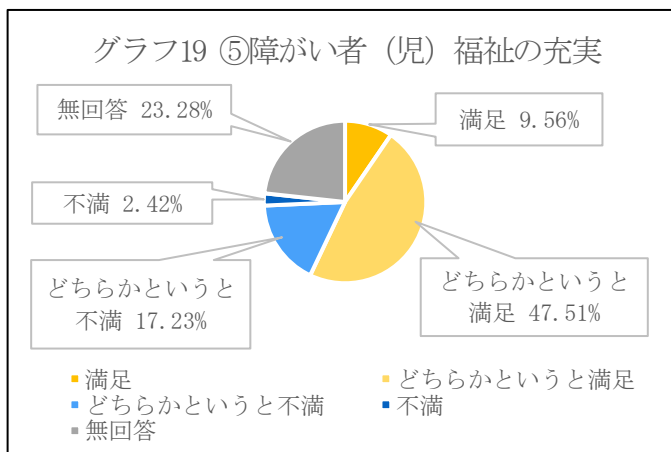


表20 ⑥社会保障制度の充実

区分	回答数	割合
満足	73	9.83%
どちらかという満足	366	49.26%
どちらかという不満	150	20.19%
不満	25	3.36%
無回答	129	17.36%
合計	743	100.00%

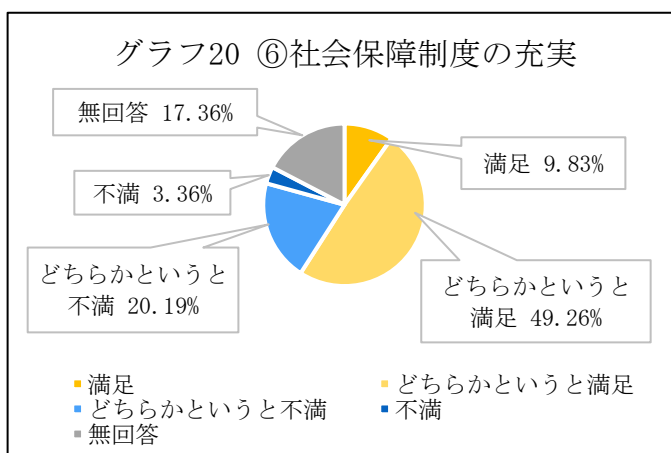


表21 ⑦保健体制の推進

区分	回答数	割合
満足	197	26.51%
どちらかという満足	414	55.72%
どちらかという不満	54	7.27%
不満	8	1.08%
無回答	70	9.42%
合計	743	100.00%

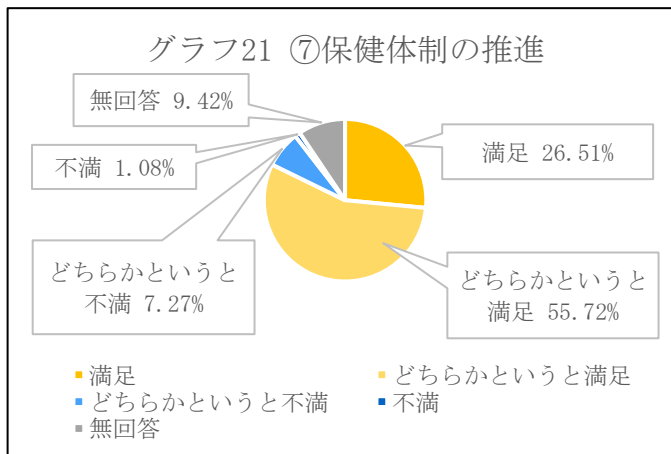
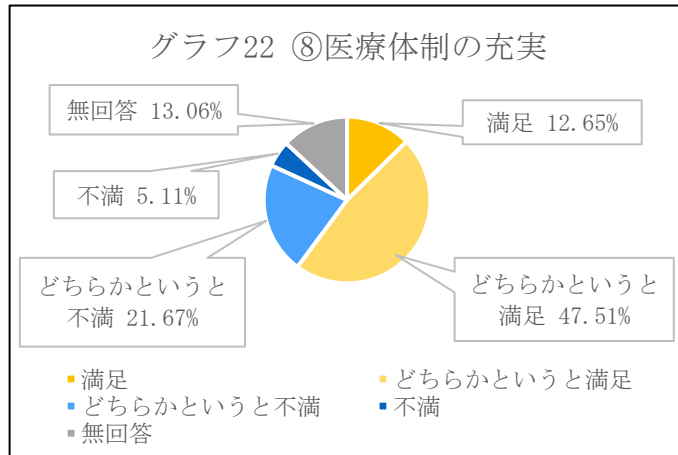


表22 ⑧医療体制の充実

区分	回答数	割合
満足	94	12.65%
どちらかという満足	353	47.51%
どちらかという不満	161	21.67%
不満	38	5.11%
無回答	97	13.06%
合計	743	100.00%



<自由意見の要約>

- ・ 子育て支援や予防接種無料などとても助かっている。(20~60代女性)
- ・ 子育て支援でもらうのが商品券だが、子育てのために使いづらい。(20代)
- ・ 雨でも子どもが遊べる場所があるといい。(40代女性)
- ・ 通院支援バスの充実。(60代)
- ・ 村内の医療機関の維持、広域医療体制の充実。(各年代複数)
- ・ 福祉サービスの充実。施設が少なく、空きがないと聞いて不安。(60代女性、50~70代男性)

5 魅力ある生活基盤をめざして

生活基盤分野は、「満足」「どちらかという満足」が54~65%、「不満」「どちらかという不満」は22~41%である。

表23 ①適正な不動産利用と村土の保全

区分	回答数	割合
満足	40	5.38%
どちらかという満足	268	36.07%
どちらかという不満	238	32.03%
不満	54	7.27%
無回答	143	19.25%
合計	743	100.00%

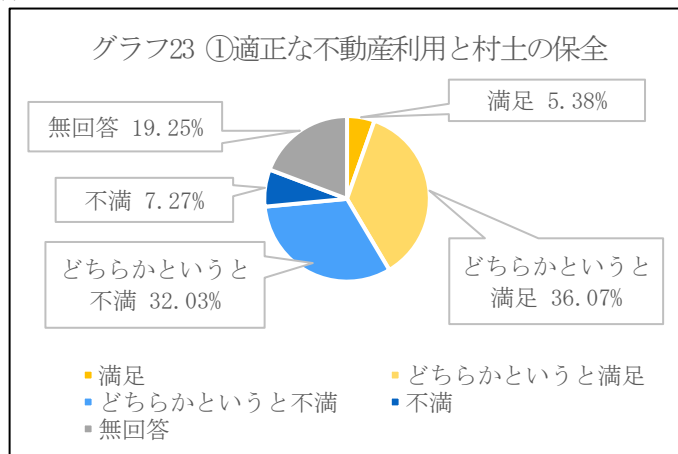


表24 ②公共交通の充実

区分	回答数	割合
満足	75	10.09%
どちらかという と満足	368	49.53%
どちらかという と不満	167	22.48%
不満	26	3.50%
無回答	107	14.40%
合計	743	100.00%

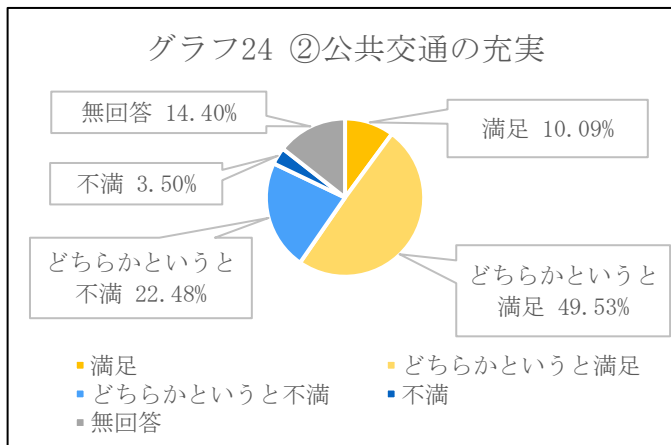


表25 ③住宅・住環境の整備

区分	回答数	割合
満足	56	7.54%
どちらかという と満足	347	46.70%
どちらかという と不満	170	22.88%
不満	34	4.58%
無回答	136	18.30%
合計	743	100.00%

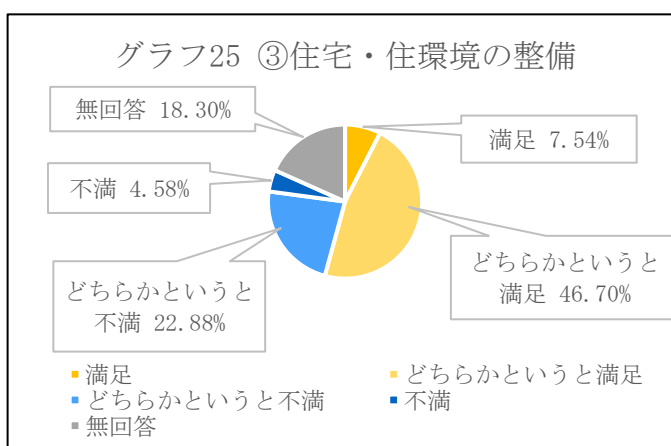


表26 ④道路網・道路環境の整備

区分	回答数	割合
満足	77	10.36%
どちらかという と満足	344	46.30%
どちらかという と不満	179	24.09%
不満	48	6.46%
無回答	95	12.79%
合計	743	100.00%

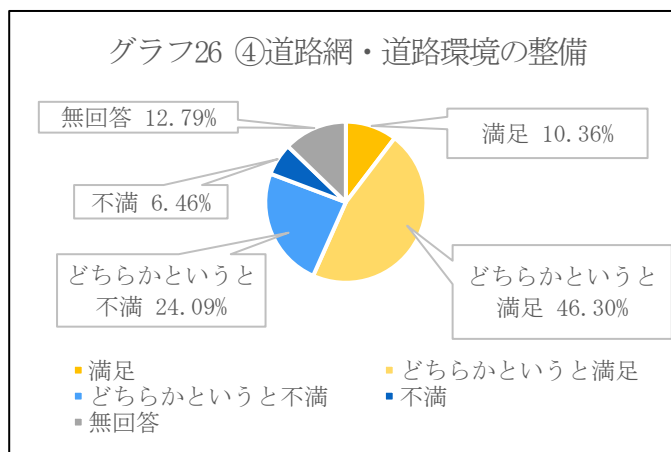
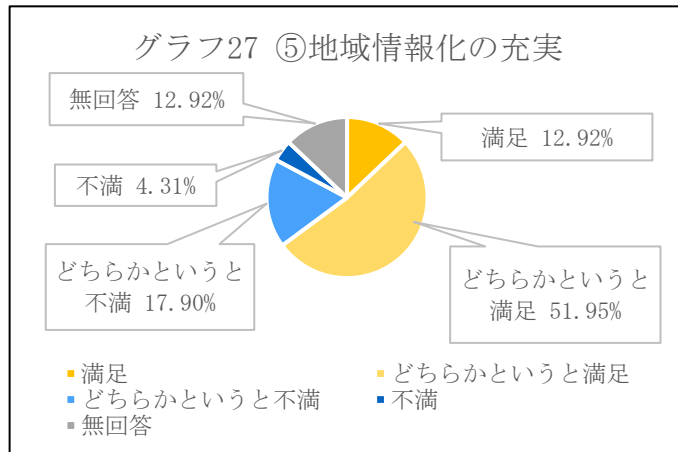


表27 ⑤地域情報化の充実

区分	回答数	割合
満足	96	12.92%
どちらかという と満足	386	51.95%
どちらかという と不満	133	17.90%
不満	32	4.31%
無回答	96	12.92%
合計	743	100.00%



<自由意見の要約>

- ・ 公式LINEができて、すごく便利になってよかった。(20代~40 女性)
- ・ 公式LINEについて、同じ内容を何度も送らないでほしい。(60代女性)
- ・ のんちゃんネットが廃止されて、高齢者への周知が遅れていると感じる。(40代男性)
- ・ 空き家が景観悪化や事故や事件につながるか不安。空き家が多い。(各年代複数)
- ・ 空き家の解体支援が必要。空き家への移住促進など利活用が必要。(各年代複数)
- ・ 玉川インターチェンジをお願いします。(各年代複数)
- ・ 防災無線が聞こえない。(各年代複数)

6 安全で安心できる住みよいむらをめざして

安全・安心の分野は、「満足」「どちらかという満足」が73~80%、「不満」「どちらかという不満」は8~15%である。

表28 ①消防・救急体制の充実

区分	回答数	割合
満足	133	17.90%
どちらかという と満足	447	60.16%
どちらかという と不満	59	7.94%
不満	11	1.48%
無回答	93	12.52%
合計	743	100.00%

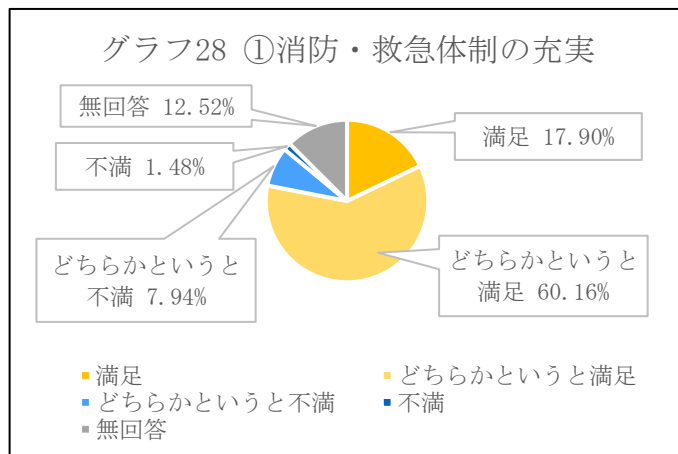


表29 ②防災体制・避難対策の充実

区分	回答数	割合
満足	113	15.21%
どちらかという満足	442	59.49%
どちらかという不満	83	11.17%
不満	11	1.48%
無回答	94	12.65%
合計	743	100.00%

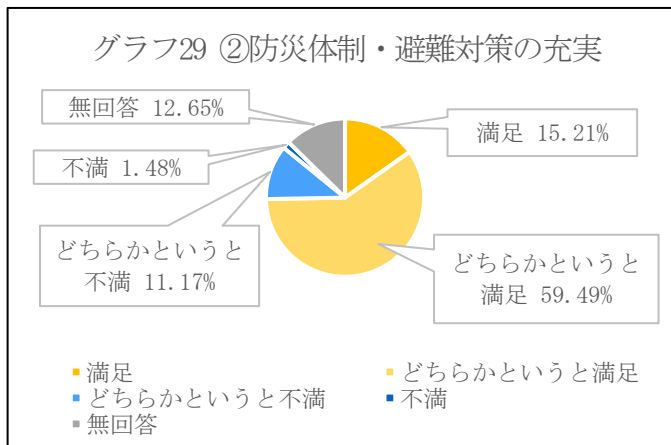


表30 ③震災伝承の充実

区分	回答数	割合
満足	126	16.96%
どちらかという満足	447	60.16%
どちらかという不満	60	8.08%
不満	8	1.08%
無回答	102	13.73%
合計	743	100.00%

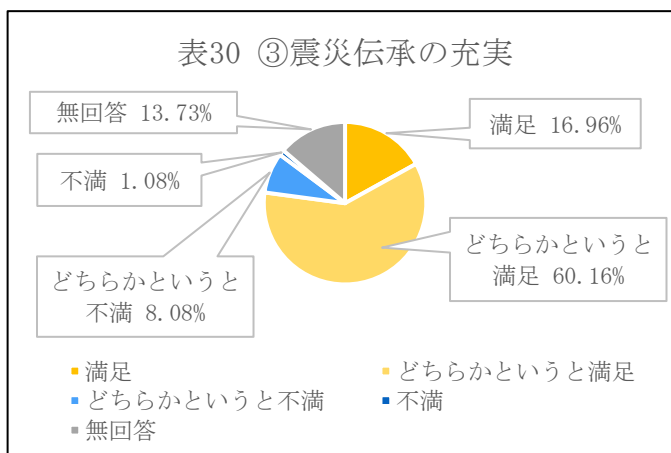


表31 ④自然環境の保全と活用

区分	回答数	割合
満足	137	18.44%
どちらかという満足	403	54.24%
どちらかという不満	94	12.65%
不満	16	2.15%
無回答	93	12.52%
合計	743	100.00%

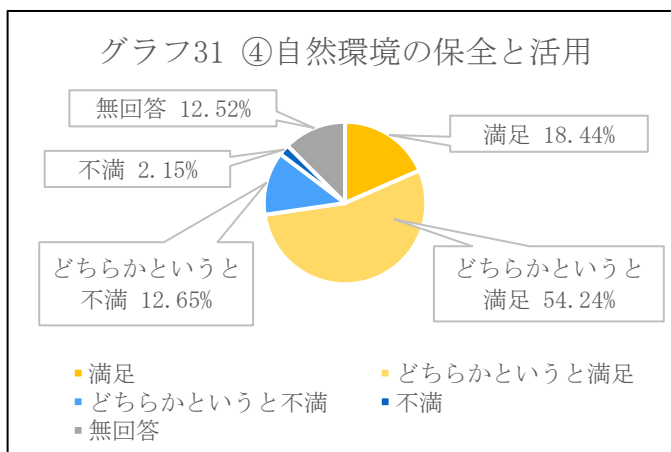


表32 ⑤環境衛生の充実

区分	回答数	割合
満足	146	19.65%
どちらかという満足	434	58.41%
どちらかという不満	80	10.77%
不満	11	1.48%
無回答	72	9.69%
合計	743	100.00%

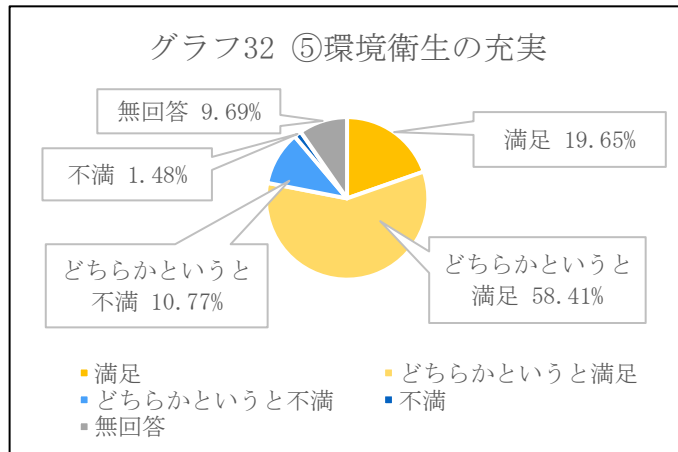


表33 ⑥交通安全の推進

区分	回答数	割合
満足	147	19.78%
どちらかという満足	448	60.30%
どちらかという不満	51	6.86%
不満	6	0.81%
無回答	91	12.25%
合計	743	100.00%

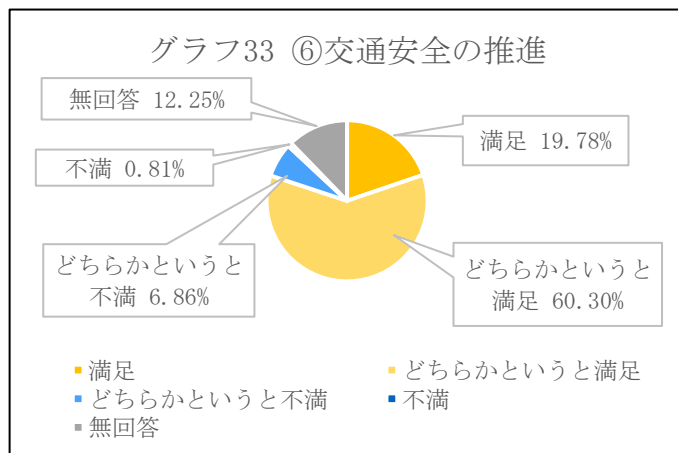
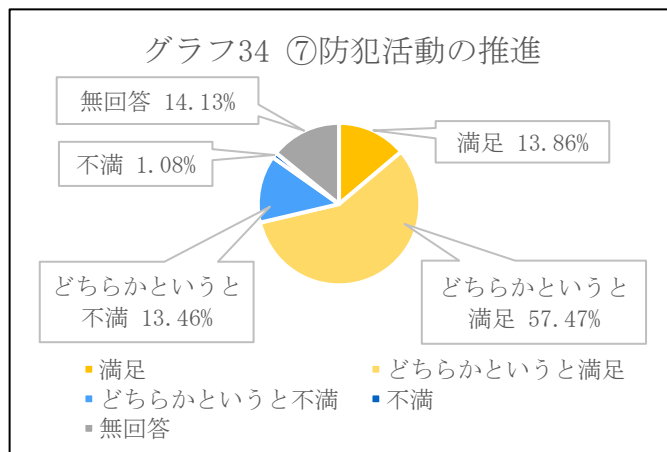


表34 ⑦防犯活動の推進

区分	回答数	割合
満足	103	13.86%
どちらかという満足	427	57.47%
どちらかという不満	100	13.46%
不満	8	1.08%
無回答	105	14.13%
合計	743	100.00%



<自由意見の要約>

- ・ スポ少やウォーキング利用者もいるし、十府ヶ浦公園に防犯灯を設置してほしい。
(各年代複数)
- ・ 燃えるごみ週2回収がとても助かる。通年で週2回にしてほしい。(50～60代女性)
- ・ 資源ごみは指定袋じゃなくてもいいようにしてほしい。瓶を出すときなど重くてスカスカでしか出せない。(40代女性)
- ・ 消防団員確保は急務。団員の負担の声も強い。(30～40代男性)
- ・ 消防団の車が通ると気持ちが引き締まる。(70代女性)

第5節 分野ごとの満足度（全体）

6分野31項目の中で、選択された割合が一番高かったのは、「満足」では福祉社会分野⑦保健体制の推進、「どちらかという満足」では安全・安心分野⑥交通安全の推進、「どちらかという不満」「不満」はいずれも産業振興分野④商工業の振興、「無回答」では産業振興分野②林業の振興である。

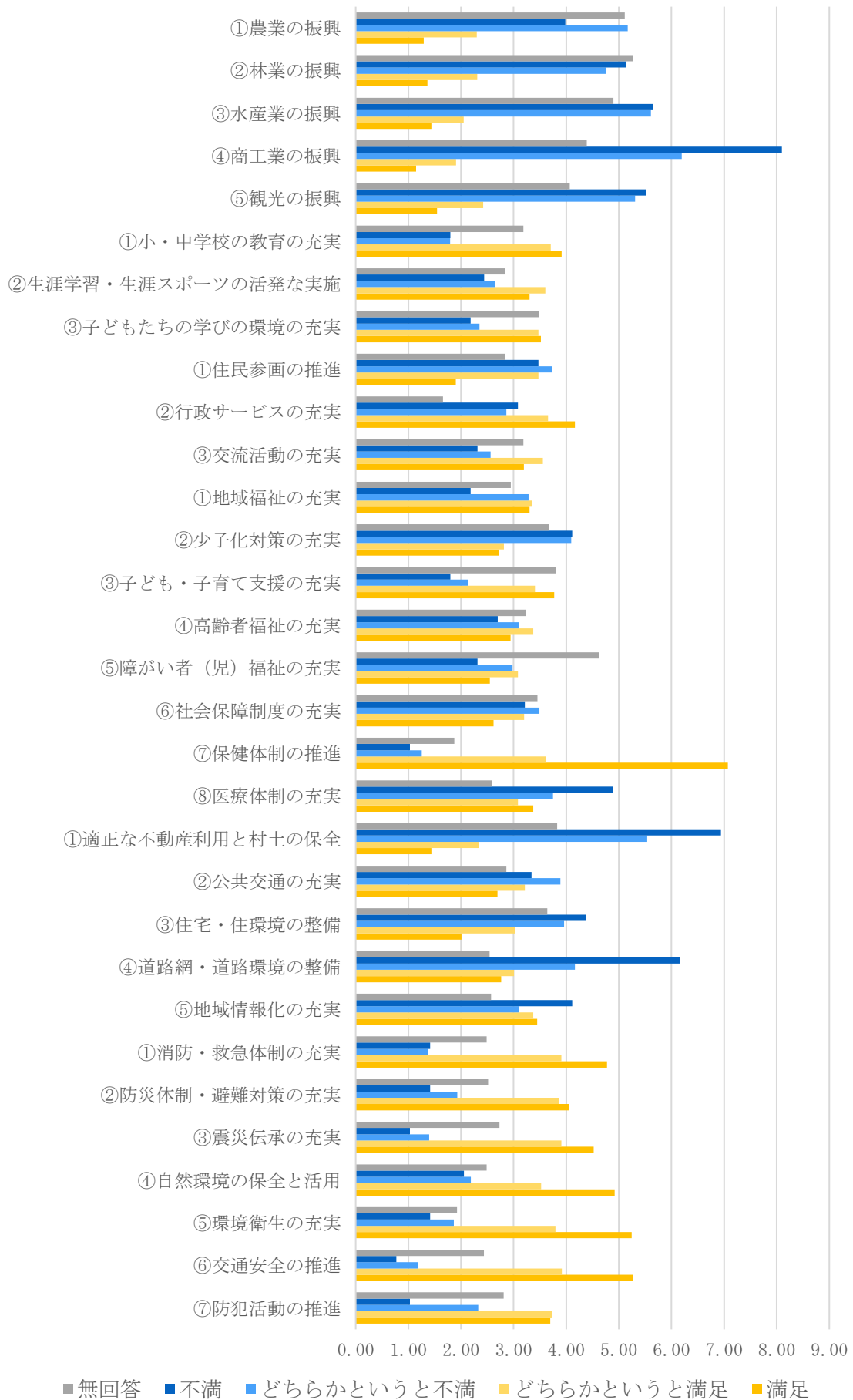
選択された割合が一番低かったのは、「満足」「どちらかという満足」はいずれも産業振興分野④商工業の振興、「どちらかという不満」「不満」はいずれも安全・安心分野⑥交通安全の推進、「無回答」では住民行政分野②行政サービスの充実である。

表35 全体集計（選択肢ごとの割合）

単位：人、%

分野	項目	回答数					割合				
		満足	どちらかとうとう満足	どちらかとうとう不満	不満	無回答	満足	どちらかとうとう満足	どちらかとうとう不満	不満	無回答
産業振興	①	36	263	222	31	191	1.29	2.30	5.17	3.98	5.11
	②	38	264	204	40	197	1.36	2.31	4.75	5.14	5.27
	③	40	235	241	44	183	1.44	2.05	5.61	5.66	4.90
	④	32	218	266	63	164	1.15	1.91	6.19	8.10	4.39
	⑤	43	277	228	43	152	1.54	2.42	5.31	5.53	4.07
教育	①	109	424	77	14	119	3.91	3.71	1.79	1.80	3.19
	②	92	412	114	19	106	3.30	3.60	2.65	2.44	2.84
	③	98	397	101	17	130	3.52	3.47	2.35	2.19	3.48
住民行政	①	53	397	160	27	106	1.90	3.47	3.73	3.47	2.84
	②	116	418	123	24	62	4.17	3.65	2.86	3.08	1.66
	③	89	407	110	18	119	3.20	3.56	2.56	2.31	3.19
福祉社会	①	92	383	141	17	110	3.30	3.35	3.28	2.19	2.95
	②	76	322	176	32	137	2.73	2.81	4.10	4.11	3.67
	③	105	390	92	14	142	3.77	3.41	2.14	1.80	3.80
	④	82	386	133	21	121	2.94	3.37	3.10	2.70	3.24
	⑤	71	353	128	18	173	2.55	3.09	2.98	2.31	4.63
	⑥	73	366	150	25	129	2.62	3.20	3.49	3.21	3.45
	⑦	197	414	54	8	70	7.07	3.62	1.26	1.03	1.87
	⑧	94	353	161	38	97	3.38	3.09	3.75	4.88	2.60
生活基盤	①	40	268	238	54	143	1.44	2.34	5.54	6.94	3.83
	②	75	368	167	26	107	2.69	3.22	3.89	3.34	2.86
	③	56	347	170	34	136	2.01	3.03	3.96	4.37	3.64
	④	77	344	179	48	95	2.76	3.01	4.17	6.17	2.54
	⑤	96	386	133	32	96	3.45	3.37	3.10	4.11	2.57
安全・安心	①	133	447	59	11	93	4.78	3.91	1.37	1.41	2.49
	②	113	442	83	11	94	4.06	3.86	1.93	1.41	2.52
	③	126	447	60	8	102	4.52	3.91	1.40	1.03	2.73
	④	137	403	94	16	93	4.92	3.52	2.19	2.06	2.49
	⑤	146	434	80	11	72	5.24	3.79	1.86	1.41	1.93
	⑥	147	448	51	6	91	5.28	3.92	1.19	0.77	2.44
	⑦	103	427	100	8	105	3.70	3.73	2.33	1.03	2.81
合計		2,785	11,440	4,295	778	3,735	100	100	100	100	100

グラフ35 全体集計（選択肢ごとの割合）



第6節 特に力を入れていくべきだと思ふ分野

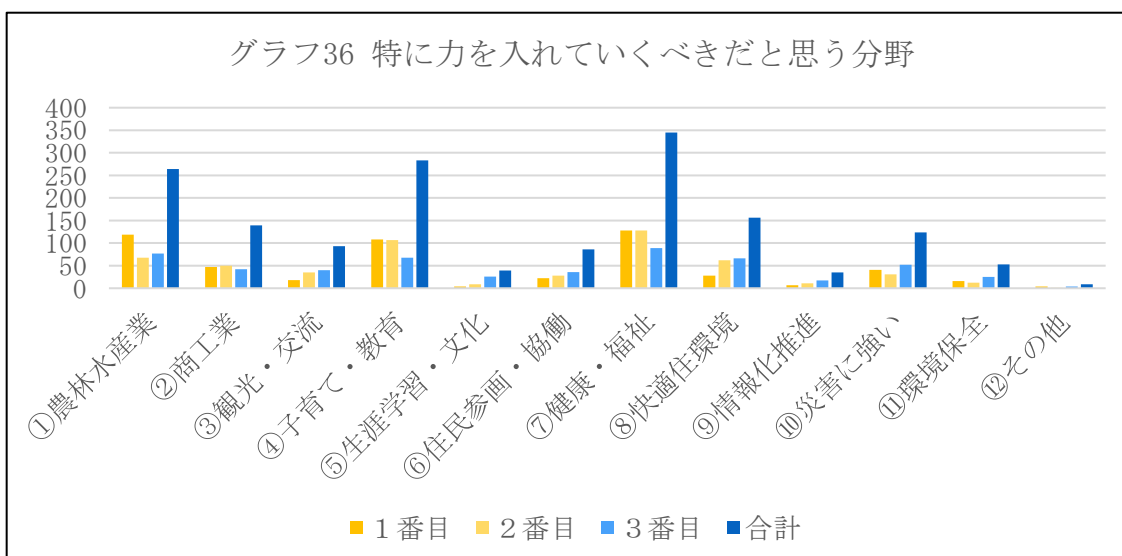
野田村のこれからのむらづくりにおいて、特に力を入れていくべきだと思ふ分野について12項目の中から重要な順に3つ選択するものである。回答結果は、以下のとおり。

1番目に重要	⑦人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のむら
2番目に重要	④子育て環境や子どもの保育・教育環境が充実した子育て・教育のむら
3番目に重要	①特色のある農業、林業、水産業を中心として発展する農林水産業のむら

表 36 特に力を入れていくべきだと思ふ分野

選択肢	1番目	2番目	3番目	合計
① 特色のある農業、林業、水産業を中心として発展する農林水産業のむら	119	68	77	264
② 地場産業の振興や街のにぎわい創出による商工業のむら	47	50	42	139
③ 地域資源を活用し、観光・レクリエーションや交流事業を進める観光・交流のむら	18	35	40	93
④ 子育て環境や子どもの保育・教育環境が充実した子育て・教育のむら	108	107	68	283
⑤ 生涯学習活動や芸術・文化・スポーツ活動が活発な生涯学習・文化のむら	4	9	26	39
⑥ 住民と行政とが協力してむらづくりを行う住民参画・協働のむら	22	28	36	86
⑦ 人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のむら	128	128	89	345
⑧ 快適で安全・安心な住居環境の整備を優先する快適住環境のむら	28	62	66	156
⑨ 高度情報化時代に対応した情報化推進のむら	7	11	17	35
⑩ 東日本大震災や台風等による大規模災害を教訓とした防災体制の強化による災害に強いむら	41	31	52	124
⑪ 自然の保護や環境の保全・創造を優先する環境保全のむら	16	12	25	53
⑫ その他 ※自由回答	4	1	4	9

※ 空欄や無効としたものは除く。



<自由意見の要約>

- ・ 「人づくり」「活気ある村づくり」「健康・福祉の充実」の3本柱を大切にしたい。(60代男性)
- ・ 仕事(産業)、医療は生活に大きく関わるので重要で、教育も今の子どもたちのために必要だと思った。(30代女性)
- ・ 高齢者がこの先も増えるので、自宅で元気に暮らすための支援を充実してほしい。(40代女性)
- ・ 医療・働く場などは広域的に考え、村は生活拠点として位置づける。(30代男性)
- ・ 村内で雇用を創出してお金を生み出せるのは一次産業。(40代男性)

第7節 その他自由意見

村民アンケートの間6として、自由意見欄にむらづくりについての意見や提案を以下のとおり要約して紹介する。

- ・ 辞める勇気も大事。変えるのはたいへんだが、将来のために大切だと思う。(20代女性)
- ・ 子どもが屋内で遊べる場所や新道の駅に遊具が欲しい(各年代複数)
- ・ 回覧板は回数を少なくするか、必要な人のみでもいいのではないか。(30代女性)
- ・ アンケートで高齢者の家は訪問し、職員が聞き取ればいいのか。(50代女性)
- ・ インフラにつながる地場業者の育成助成は重要だと思う。(40代男性)
- ・ のだ塩ソフトを新旧の道の駅で販売してほしい。並んでいて買えない。(女性共通)
- ・ 道路の整備を観光のためにもしたほうがいい。道路脇の草木がすれ違うとき危ない。(男性共通)

第8節 村民アンケートの内容

令和7年8月
野田村役場総務課

むらづくり（総合計画）に関する アンケート調査ご協力のお願い

村では、今年度、今後のむらづくりの基本的な方向を定める「野田村総合計画」を策定することとしております。

つきましては、広く村民の皆さまからご意見を伺い、計画策定の参考資料とするため、18歳以上の村民の皆さんの中から無作為に抽出した約1,500人を対象にアンケート調査を実施しますので、感じたままをご記入願います。

なお、この調査はすべて統計的に処理をし、総合計画の策定や今後のむらづくり等の業務以外の目的には一切使用することはございません。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨にご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

ご記入にあたってのお願い

- 1 調査票は裏面からになります。ご確認ください。
- 2 ご回答は、回答欄にチェック「✓」又は「○」をしてください。
(鉛筆・ボールペン可)
- 3 調査票は9月26日(金)までに記入し、お近くのポストに投函するか役場総務課にご持参ください。お手数をおかけしますが、よろしく願います。
- 4 この調査について、ご不明な点がございましたら、下記にお問い合わせください。

(問い合わせ先)

野田村役場 総務課 財政班
電話 78-2111(内線 116)

アンケート調査票

問1

あなたご自身のことについて、教えてください。

①～⑥の各項目について、当てはまるものにチェック「✓」をお願いします。

項目	選択肢									
①あなたの性別は	1 男性 <input type="checkbox"/>	2 女性 <input type="checkbox"/>								
②あなたの年齢は	1 10代 <input type="checkbox"/>	2 20代 <input type="checkbox"/>	3 30代 <input type="checkbox"/>	4 40代 <input type="checkbox"/>	5 50代 <input type="checkbox"/>	6 60代 <input type="checkbox"/>	7 70代 <input type="checkbox"/>	8 80代 以上 <input type="checkbox"/>		
③あなたの職業は	1 農林業 <input type="checkbox"/>	2 水産業 <input type="checkbox"/>	3 自営業 <input type="checkbox"/>	4 会社・ 公務員 <input type="checkbox"/>	5 内職・ パート <input type="checkbox"/>	6 無職 <input type="checkbox"/>	7 その他 ⇒ <input type="checkbox"/>	(内容)		
④あなたの世帯は	1人 <input type="checkbox"/>	2人 <input type="checkbox"/>	3人 <input type="checkbox"/>	4人 <input type="checkbox"/>	5人 以上 <input type="checkbox"/>					
⑤あなたのお住いの地区は	1 大葛 種綿 間明 日形井 <input type="checkbox"/>	2 米田 和野平 沢山 <input type="checkbox"/>	3 下泉沢 上泉沢 中平 南浜 <input type="checkbox"/>	4 北区 愛宕町 本町 旭町 新町 <input type="checkbox"/>	5 門前小 路 前田小 路 横町 <input type="checkbox"/>	6 港 下新山 中新山 上新山 中沢 広内 <input type="checkbox"/>	7 下明内 上明内 <input type="checkbox"/>	8 玉川 玉鉾 根井 下安家 <input type="checkbox"/>		
⑥あなたの出身は	1 野田村 <input type="checkbox"/>	2 久慈市 洋野町 普代村 <input type="checkbox"/>	3 県内 <input type="checkbox"/>	4 県外 <input type="checkbox"/>						

問2

あなたは、野田村の「暮らしやすさ」をどう感じていますか。
当てはまるものにチェック「✓」をお願いします。
また、よろしければその理由をお聞かせください。(自由回答)

¹
不満

²
どちらかと
いうと不満

³
どちらかと
いうと満足

⁴
満足

(自由回答)

問3

あなたは、これからも野田村に「住みたい」と思いますか。
当てはまるものにチェック「✓」をお願いします。
また、よろしければその理由をお聞かせください。(自由回答)

¹
住みたくない

²
どちらかと
いうと住み
たくない

³
どちらかと
いうと
住みたい

⁴
住みたい

(自由回答)

問4 あなたは、むらづくりの現状について、どのように感じていますか。以下の各項目について、当てはまるもの(1~4)に「○」をお願いします。また、よろしければその理由をお聞かせください。(自由回答)
 ※質問項目があなたに該当しないなど、回答が「分からない」場合は、回答なしでも差し支えありません。

項目	満足度			
	不満	どちらか というと 不満	どちらか というと 満足	満足
	1	2	3	4

1. 産業振興による地域活力の増進をめざして
 以下の各項目について、どのように感じていますか。

①農業の振興 (機械導入等による省力化・効率化、担い手育成、産地直売及び加工・販売等の6次産業化による所得向上など)	1	2	3	4
②林業の振興 (森林整備、鳥獣被害対策、しいたけ等の特用林産物の生産)	1	2	3	4
③水産業の振興 (つくり育てる漁業の促進、質の高い水産物の生産、養殖漁業の振興、就漁者確保、販路拡大など)	1	2	3	4
④商工業の振興 (街なかの賑わい創出、経営改善の支援、商品開発・PR・販路拡大の支援など)	1	2	3	4
⑤観光の振興 (自然環境を生かした観光、歴史や郷土食等の活用、SNS等による情報発信、交流の創出・深化など)	1	2	3	4

(自由回答)

項目	満足度			
	不満	どちらか というと 不満	どちらか というと 満足	満足
				
	1	2	3	4
<p>2. ふるさとを愛し、夢と希望をもって、未来をたくましく創造するひとづくりをめざして ☞ 次の各項目について、どのように感じていますか。</p>				
①小・中学校の教育の充実 (学習、部活動、行事など)	1	2	3	4
②生涯学習・生涯スポーツの活発な実施 (各種芸術文化、スポーツイベントなど)	1	2	3	4
③子どもたちの学びの環境の充実 (学校の環境、家庭教育、育英制度など)	1	2	3	4
(自由回答)				
<p>3. 住民と行政の連携による持続可能なむらをめざして ☞ 次の各項目について、どのように感じていますか。</p>				
①住民参画の推進 (町内会・世代間交流など様々なコミュニティ支援、多様な住民参画の充実など)	1	2	3	4
②行政サービスの充実 (窓口対応や手続きのしやすさなど)	1	2	3	4
③交流活動の充実 (在京会、友好町村、心はいつものだ村民、震災後から今も続く各種交流など)	1	2	3	4
(自由回答)				

項目	満足度			
	不満	どちらか というと 不満	どちらか というと 満足	満足
	1	2	3	4
<p>4. 誰もが安心して暮らせる社会福祉をめざして ☞ 次の各項目について、どのように感じていますか。</p>				
①地域福祉の充実 (通院支援バス・有償ボランティアなどの福祉サービスや要支援者の支援など)	1	2	3	4
②少子化対策の充実 (子どもを安心して生み育てられる環境への支援、出会いの場づくりなど)	1	2	3	4
③子ども・子育て支援の充実 (保育事業、放課後児童クラブや在宅子育て応援手当など)	1	2	3	4
④高齢者福祉の充実 (介護予防事業、後期高齢者の保健事業や認知症予防活動など)	1	2	3	4
⑤障がい者(児)福祉の充実 (就労支援・日中活動などの福祉サービスや相談支援など)	1	2	3	4
⑥社会保障制度の充実 (国保制度の理解・啓発、介護保険の相談・サービス、国民年金制度の理解・啓発等)	1	2	3	4
⑦保健体制の推進 (特定健診・各種がん検診、特定保健指導やワクチン接種など)	1	2	3	4
⑧医療体制の充実 (診療施設・設備の維持管理や医療支援バスなど)	1	2	3	4
(自由回答)				

項目	満足度			
	不満	どちらか というと 不満	どちらか というと 満足	満足
				
	1	2	3	4
5. 魅力ある生活基盤をめざして ☞ 次の各項目について、どのように感じていますか。				
①適正な不動産利用と村土の保全 (空き家対策、治山等の防災対策、河川改修など)	1	2	3	4
②公共交通の充実 (村営バスの運行、三陸鉄道への運行支援など)	1	2	3	4
③住宅・住環境の整備 (村営住宅の整備、空き家改修補助、リフォーム補助、耐震補助など)	1	2	3	4
④道路網・道路環境の整備 (村道の維持管理・改良・整備など)	1	2	3	4
⑤地域情報化の充実 (村公式 LINE やXなどのSNS運用、防災行政無線の運用など)	1	2	3	4
(自由回答)				

項目	満足度			
	不満	どちらか というと 不満	どちらか というと 満足	満足
	1	2	3	4
6. 安全で安心できる住みよいむらをめざして ☞ 次の各項目について、どのように感じていますか。				
①消防・救急体制の充実 (消防団員の確保、防火水槽等の整備、救急車の更新など)	1	2	3	4
②防災体制・避難対策の充実 (防災計画・防災マップの見直し、自主防災組織の育成など)	1	2	3	4
③震災伝承の充実 (復興展示室、震災学習、写真返却、追悼行事など)	1	2	3	4
④自然環境の保全と活用 (十府ヶ浦公園の維持管理による緑地空間の提供など)	1	2	3	4
⑤環境衛生の充実 (ごみの分別収集の推進、再生可能エネルギーの活用など)	1	2	3	4
⑥交通安全の推進 (交通安全教育、交通指導員による街頭指導、季節ごとの交通安全運動など)	1	2	3	4
⑦防犯活動の推進 (地域安全協議会による防犯活動、青色防犯パトロール、防犯灯設置の助成など)	1	2	3	4
(自由回答)				

問5

あなたは、これからの野田村のむらづくりにおいて、特に力を入れていくべきだと思う分野はどれだと思いますか。

項目（施策）の中から重要と考えるものを3つ選び、重要度の高い順（1～3番）にチェック「✓」をお願いします。

項目（施策）	1番重要	2番目に重要	3番目に重要
①特色のある農業、林業、水産業を中心として発展する農林水産業のむら	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②地場産業の振興や街のにぎわい創出による商工業のむら	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③地域資源を活用し、観光・レクリエーションや交流事業を進める観光・交流のむら	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④子育て環境や子どもの保育・教育環境が充実した子育て・教育のむら	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤生涯学習活動や芸術・文化・スポーツ活動が活発な生涯学習・文化のむら	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥住民と行政とが協力してむらづくりを行う住民参画・協働のむら	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のむら	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧快適で安全・安心な住居環境の整備を優先する快適住環境のむら	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨高度情報化時代に対応した情報化推進のむら	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩東日本大震災や台風等による大規模災害を教訓とした防災体制の強化による災害に強いむら	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪自然の保護や環境の保全・創造を優先する環境保全のむら	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他 ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(自由回答)			

問6

その他、むらづくりについてのご意見やご提案などがありましたら、お聞かせください。

自由意見欄



ご協力ありがとうございました



第4編

野田村の計画体系

野田村の計画体系

野田村の計画体系は、「野田村総合計画」「野田村まち・ひと・しごと創生総合戦略」「野田村国土強靱化地域計画」を上位計画として、以下の諸計画によって主に構成されている。

産業振興	・ 地域農業経営基盤強化促進計画 ※地域計画
	・ 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想
	・ 畜産クラスター計画
	・ 野田村森林整備計画
	・ 病虫害防除計画
	・ 野田村鳥獣被害防止計画
	・ 創業支援等事業計画
	・ 経営発達支援計画
	・ 導入促進基本計画
	・ 事業継続力強化支援計画
・ 野田村観光施設事業経営戦略	

教育	・ 野田村教育振興基本計画
-----------	---------------

社会福祉	・ 野田村地域福祉計画
	・ 野田村子ども・子育て支援事業計画 <ul style="list-style-type: none"> - 子ども・子育て支援事業計画 - 次世代育成支援行動計画 - 母子保健計画
	・ 野田村高齢者福祉計画
	・ 久慈広域連合介護保険事業計画
	・ 野田村障がい者プラン <ul style="list-style-type: none"> - 障がい者計画 - 障がい福祉計画 - 障がい児福祉計画
	・ 健康のだ 21 プラン <ul style="list-style-type: none"> - 健康増進計画 - 食育推進計画
	・ 野田村いのちを支える行動計画
	・ のだむら歯と口腔の健康づくり基本計画

生活 基盤	・野田農業振興地域整備計画
	・野田村公営住宅等長寿命化計画
	・野田村簡易水道事業経営戦略
	・野田村公共下水道事業計画
	・野田村下水道事業経営戦略
	・野田村下水道施設ストックマネジメント計画
	・野田村汚水処理実施計画
	・野田村橋梁長寿命化修繕計画

安全 安心	・野田村地域防災計画 - 野田村耐震改修促進計画
	・大規模災害時業務継続計画《野田村BCP》
	・野田村災害時受援計画
	・野田村国民保護計画
	・野田村一般廃棄物処理基本計画 - 野田村一般廃棄物処理実施計画
	・野田村分別収集計画
	・野田村災害廃棄物処理マニュアル（野田村災害廃棄物処理計画）
	・野田村交通安全計画
	・野田村再犯防止推進計画

住民 と 行政	・野田村男女共同参画基本計画
	・野田村定員管理計画
	・野田村過疎地域持続的発展計画
	・野田村公共施設等総合管理計画 - 野田村公共施設等個別施設計画
	・野田村人口ビジョン

第5編

野田村総合計画の 施 策 体 系

野田村総合計画の施策体系

基本目標 1 産業振興による地域活力の増進をめざして

基本施策 1 農業の振興 (1) 活力ある農業の展開 (2) 農業生産環境の充実
基本施策 2 林業の振興 (1) 森林整備の推進 (2) 特用林産物等の振興 (3) 公益的機能の保持
基本施策 3 水産業の振興 (1) 漁業生産の安定向上 (2) 流通体制の整備 (3) 担い手の育成
基本施策 4 商工業の振興 (1) 経営体質の強化 (2) 商業環境の充実 (3) 商業附帯施設の利用 (4) 企業誘致の促進 (5) 地場産業の振興
基本施策 5 観光の振興 (1) 観光資源の魅力向上 (2) 観光PRの強化 (3) 広域観光の推進 (4) 特産品の開発
基本施策 6 雇用対策の充実 (1) 雇用の安定と人材育成

基本目標 2 ふるさとを愛し、夢と希望をもって、未来をたくましく創造する人づくりをめざして

基本施策 1 学校教育の充実 (1) 地域学習及び復興教育の推進 (2) 確かな学力の育成 (3) 豊かな心の育成 (4) 健やかな体の育成 (5) 特別支援教育の推進 (6) 生徒指導及びこころのケアの充実 (7) 教員の授業力向上 (8) その他
基本施策 2 生涯学習・生涯スポーツの振興 (1) 生涯学習社会の形成 (2) 芸術文化活動の推進 (3) 生涯スポーツの振興 (4) 体育・社会教育施設の整備及び活用促進
基本施策 3 学びの環境づくり (1) 家庭及び地域の教育力の向上 (2) 学びの環境づくり (3) 育英制度の充実

基本目標3 誰もが安心して暮らせる社会福祉をめざして

基本施策1 地域福祉の充実 (1) 地域福祉の推進 (2) 在宅福祉サービスの向上 (3) 生活環境の整備
基本施策2 子ども・子育て支援の充実 (1) 児童保育の充実 (2) 子育て支援の充実 (3) 少子化対策の推進 (4) ひとり親家庭の支援
基本施策3 高齢者福祉の充実 (1) 生きがいづくりの推進 (2) 健康づくりと福祉サービスの充実
基本施策4 障がい者（児）福祉の充実 (1) 障がい者（児）福祉の充実 (2) 社会参加と生きがいづくり
基本施策5 社会保障の充実 (1) 介護保険制度の適正運用 (2) 国民健康保険の健全運営 (3) 国民年金制度の理解促進 (4) 医療費助成
基本施策6 保健体制の推進 (1) 保健活動の推進 (2) 健康づくりの推進
基本施策7 医療体制の充実 (1) 医療体制の充実

基本目標4 魅力ある生活基盤をめざして

基本施策1 適正な土地の利用と村土の保全 (1) 土地利用計画体系の整備 (2) 農業振興地域整備計画 (3) その他の土地利用 (4) 海岸保全対策の推進 (5) 治水対策の推進 (6) 治山対策の推進
基本施策2 公共交通の充実 (1) 鉄道利用者の利便性の向上 (2) バス利用者の利便性の向上
基本施策3 住宅・住環境の整備 (1) 良質な住宅の供給の促進 (2) 定住対策の推進 (3) 空き家対策の推進
基本施策4 水資源の確保と水道の整備 (1) 水資源の確保 (2) 農業用水の有効利用 (3) 公営企業会計の運用 (4) 水道施設の整備充実 (5) 安定供給の確保 (6) 安全性の確保
基本施策5 下水道の整備 (1) 公営企業会計の運用 (2) 下水道施設の整備 (3) 集落排水施設の整備 (4) 浸水対策施設の整備 (5) 浄化槽の設置整備

基本施策6 道路網・道路環境の整備	
(1) 高規格幹線道路網等の整備	(3) 生活道路網の整備
(2) 広域幹線道路網等の整備	(4) 道路環境の整備
基本施策7 地域情報化の充実	
(1) 情報通信網の整備充実	(2) 情報化の推進

基本目標5 安全で安心できる住みよいむらをめざして

基本施策1 消防・救急体制の強化	
(1) 火災予防の推進	(3) 救急体制の充実
(2) 消防体制の充実	
基本施策2 防災体制の強化	
(1) 村の地域防災体制の充実	(3) 住民による地域防災体制の強化
(2) 広域防災体制の確立	
基本施策3 震災伝承の充実	
(1) 震災伝承の充実	
基本施策4 自然環境の保全と活用	
(1) 自然環境の保全と活用の推進	(2) 公園・緑地の維持管理
基本施策5 環境衛生の充実	
(1) ごみの減量化・分別収集の徹底	(4) リサイクルの促進
(2) 産業廃棄物の適正処理の推進	(5) 公害防止対策の推進
(3) 不法投棄の防止	(6) エネルギー対策の推進
基本施策6 地域安全の推進	
(1) 交通安全思想の普及	(4) 防犯意識の啓発
(2) 道路交通の安全性の確保	(5) 防犯施設の整備
(3) 交通事故被害者の救済	(6) 消費者保護の推進

基本目標6 住民と行政の連携による持続可能なむらをめざして

基本施策1 住民参画の推進	
(1) 協働型むらづくりの推進	(4) 情報公開の推進
(2) 男女共同参画社会の推進	(5) コミュニティ活動の推進
(3) 広聴広報の充実	
基本施策2 行政サービスの充実	
(1) 行政機構の見直し	(4) 行政の情報化の推進
(2) 施策及び事務事業の適正化	(5) 窓口サービスの向上
(3) 職員の能力開発	(6) 指定管理者制度の推進
基本施策3 健全な財政運営	
(1) 財政運営の健全化	(2) 公有財産の適正な管理運用

基本施策4 広域連携の推進	
(1) 広域連携の推進	
基本施策5 地方創生の推進	
(1) 総合戦略の推進	(2) 結婚活動の支援
基本施策6 交流活動の充実	
(1) 地域間交流の推進	(2) 交流活動の支援

特別ご協力いただいた皆さま

21世紀むらづくり委員会委員及び特別委員の皆さま

村民アンケートにご協力いただいた村民の皆さま

表紙写真 小倉 幸一 様

